

Hope

Fun

Support

Encounter



聖学院大学ボランティア活動支援センター

2018 年度事業報告書

Seigakuin Volunteer Support Center Report 2018

聖学院大学 ボランティア活動支援センター

2018 年度事業報告書

2020 年 3 月発行

発行

聖学院大学ボランティア活動支援センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-780-1705

FAX: 048-781-0094

URL: <http://seig-vc.jimdo.com/>

E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp



学校法人聖学院は2018 年 4 月、
グローバル・コンパクトに署名・加入し、
SDGs を目指した活動を行っています。

Love

Change

Exchange

Smile



『受けるよりは与える方が幸いである』

—新約聖書 使徒言行録 第20章35節



聖学院大学ボランティア活動支援センター 所長
政治経済学部 教授
平 修久

ボランティア活動支援センターは、設立して 7 周年を迎えました。毎年、新たにボランティア活動を行う学生が加わり、地域からも新たな要望を頂き、また、地域の方々とのつながりが発展し、その結果、新たな活動が生まれます。

今年度の新しい活動として、次のことがありました。7 月のセタバラ Tea では、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティア募集を案内し、留学生を含み在校生が申込みを行いました。9 月には、ボランティア活動を行っている学生を対象に SDGs(持続可能な開発目標)に関する研修会を開催し、「わたしがやりたいことと世界の課題」というワークで、学生の活動が SDGs の関係していることを確認しました。この研修会などをベースに、講師の森さんのご尽力により、2 月に「ボランティア/市民活動と持続可能な世界(SDGs)」を発行しました。

一方、釜石市での復興支援活動は今年も実施しました。ただし、仮設住宅の原則終了に伴い、桜を届ける活動は今年度で最後となりました。夏の「いっさプロジェクト」では、例年のように、学生の元気な踊りを地元の方々に喜んで頂きました。最終日に、石巻市の旧大川小学校で語り部の方から 311 のお話を伺い、参加者一同、哀悼の意を捧げるとともに、東日本大震災を風化させないという思いを新たにしました。また、被災地での少人数による活動も継続し、復興支援ボランティア交通費補助金をのべ 29 人が利用しました。釜石の高校生の活動支援の 2 年目として、中学生のキャリア教育 2 回と小学生向け防災授業をサポートしました。

このような活動が外部の方にも伝わり、埼玉県防災学習センターから、「未来をひらく〜3.11 から」の開催に関しての協力依頼がありました。他大学の学生と一緒にイベントの企画・準備を行い、大学生・高校生が参加し、学生は新たな学びを得ました。

これらのボランティア活動に興味関心を持つ学生が増えたこともあり、4 月の新歓ボラ Tea は過去最高の来場者となり、数名の新入生がサボメン講座に参加しました。ボランティアのマッチングも年間で 370 件へと増加しました。

11 月には、2000 年以降の活発な学生ボランティア活動が評価され、「ボランティア功労者厚生労働大臣表彰」を受けました。その報告も兼ねて、3 月に「ボランティアの集い」を実施し、100 名近くの在学学生、卒業生、教職員が、これまでの活動談義に花を咲かせました。

以上のように、今年度も多種多様で盛沢山の活動を行いました。引き続き、学生のボランティア活動に対するご理解、ご支援、ご指導をお願いいたします。

目次

聖学院大学ボランティア活動支援センター設立 7 年目を迎えて	3
ボランティア活動支援センター 所長 平 修久	
新入生のボランティア意識調査	
―「2018 年度ボランティア活動に関わるアンケート」から―	6
センター年間行事一覧	11
各事業報告	13
1. ボランティアの人材育成とその担保に関する事業	14
(1) 学内ボランティア団体の育成支援	
(2) 学生サポートメンバー養成講座（7 期）の実施	
(3) 視野を広げるボランティア教養講座の実施	
(4) 「学生ボランティア対象 SDGs 研修会」の実施と冊子の発行	
2. 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業	19
(1) 学生サポートメンバー（サポメン！）との連携	
(2) 授業等への協力	
(3) ボランティア・まちづくり活動助成事業の実施	
(4) 聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金	
3. 復興支援ボランティア事業	28
ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト 5」参加レポートより	
(1) 東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアーの実施	
(2) 釜石「キッズかけっこ教室」の実施	
(3) 釜石の高校生×聖学院生による釜石〇〇プロジェクトの実施	
(4) 「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」の実施	
(5) 関連機関との連携	
4. 学外のボランティア情報の紹介とその活動の支援に関する事業	40
(1) ボランティアコーディネート業務	
(2) 「夏の“ちょっと”ボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン	
(3) 「ボラフェス！2018」の実施	
(4) 地域イベントへの参画	
(5) 行政、市民活動団体との連携事業	
(6) 学外団体からの相談対応	
(7) コーディネーターのスーパーバイズ	
5. ボランティア活動の記録と広報に関する事業	48
(1) ボランティア情報の発信（メルマガ・LINE@/ホームページ・facebook・	
掲示板）	
(2) ボランティア活動支援センター広報活動	

6. その他の事業	50
(1) 視察・研修記録	
(2) 視察対応・活動発表・講師対応・外部委員	
(3) 学内他部署との連携	
(4) 他大学との連携	
(5) ボランティア功労者厚生大臣表彰の受賞と「ボランティアの集い」の実施	
資料集	55
(1) ボランティア活動支援センター内規	
(2) ボランティア活動支援センター運営委員一覧（2018年度）	
(3) ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項	
(4) メディア出演・掲載	
(5) 広報ポスター各種	

新入生のボランティア意識調査 —「2018 年度ボランティア活動に関わるアンケート」から—

1. 調査の目的と概要

聖学院大学ボランティア活動支援センターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として、本アンケートを実施した。

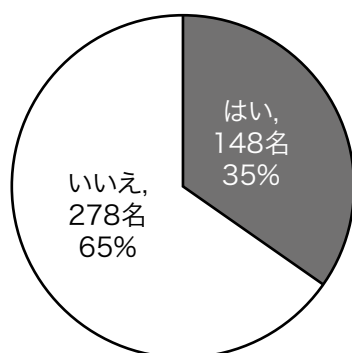
2018 年度入学者 616 名のうち 426 名から回答を得られた。今後さらに魅力的な活動マッチングや新規プロジェクト立ち上げへの支援などに活かしていくため、このアンケート結果を活用する。

2. 調査結果 ※小数点以下は四捨五入で算出

(1)大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前に自発的にボランティア活動に参加した経験があるか尋ねたところ（図1）、経験有りと回答が 35%（148 名）で、経験なしの回答は 65%で（278 名）だった。

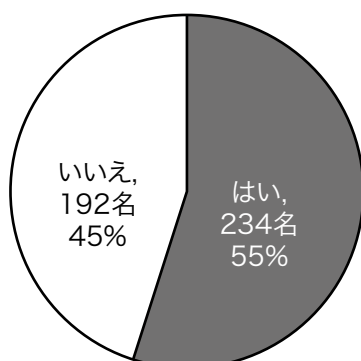
図1-1. 大学入学以前の自発的なボランティア活動経験



(2)大学時代にボランティア活動に参加したいか

本年度、活動希望者は全体の 55%（234 名）となり、活動参加を希望しない者の 45%をやや上まわる結果となった（図2）。新入生のうち、6 割弱の学生が在学中にボランティア活動に参加したい意欲があることがわかった。

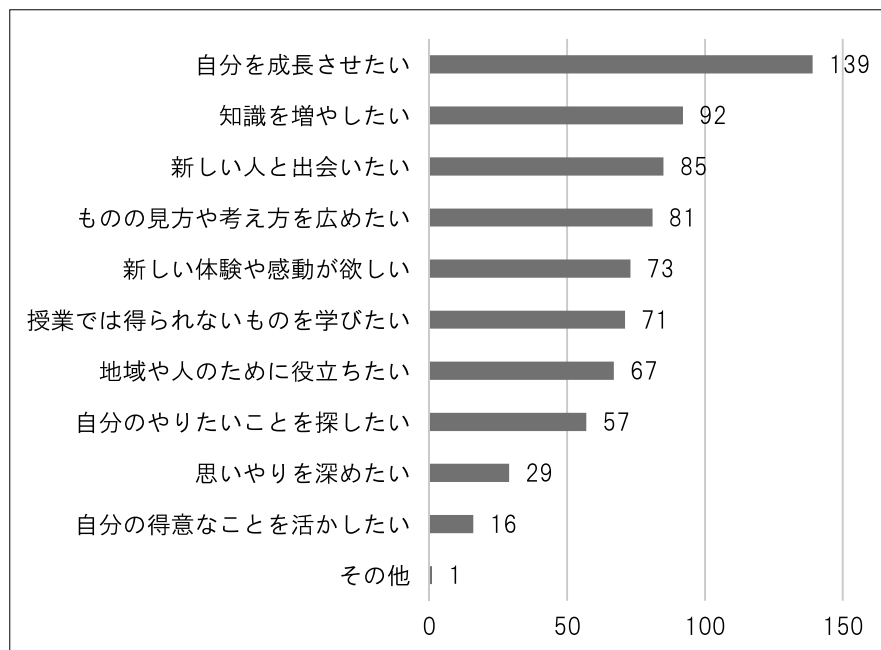
図2-1. 大学時代にボランティア活動に参加してみたいと思うか



(3) ボランティア活動に参加したい理由

次に、参加希望者（234 名）のみを対象に、ボランティア活動に参加したい理由について複数回答で尋ねた（図3）。

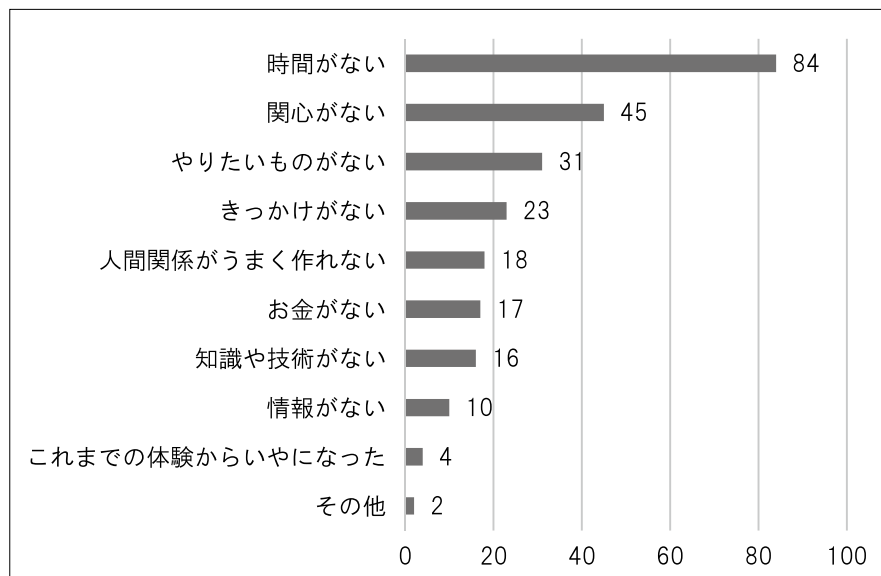
図3. ボランティア活動に参加したい理由(回答者 234 名／複数回答可)



(4) ボランティア活動に参加を希望しない理由

次に、ボランティア活動に参加を希望しない学生（192 名）を対象に、参加を希望しない理由を尋ねたところ下記のような結果となった（図4）。

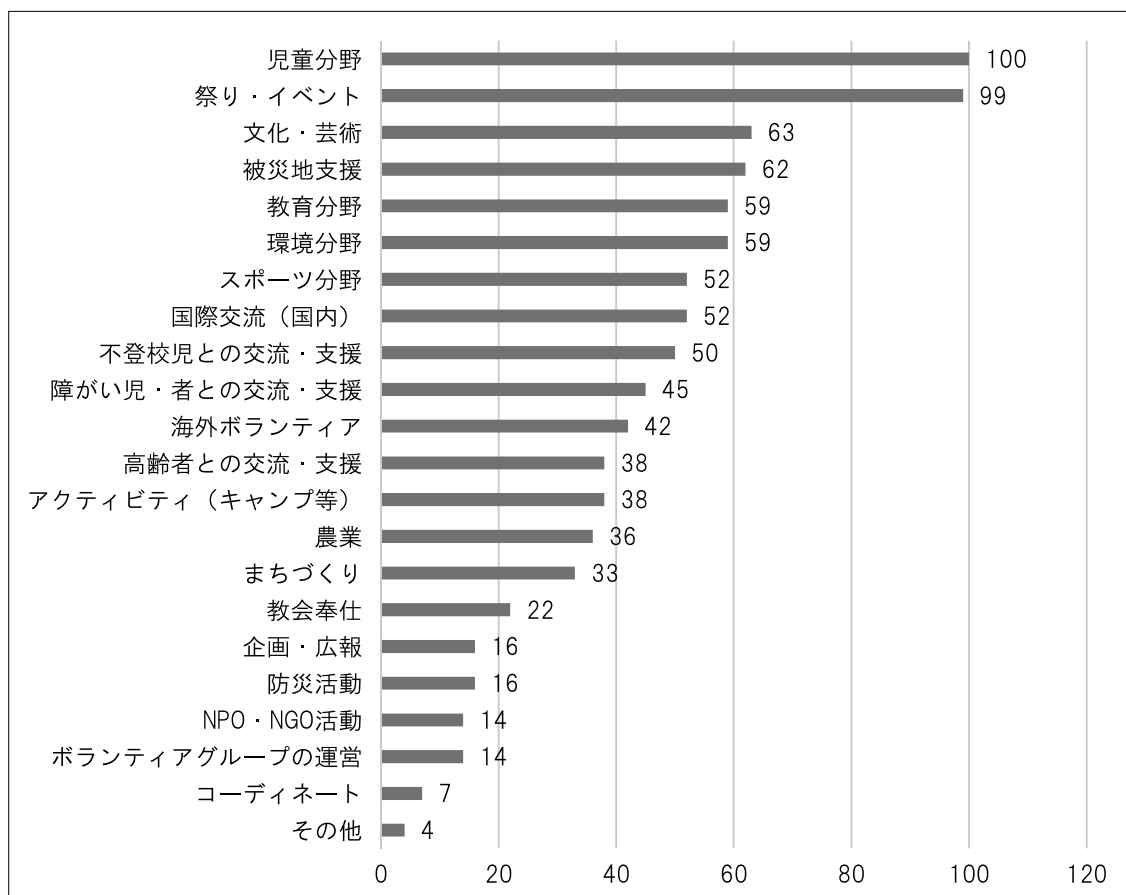
図4. ボランティア活動に参加を希望しない理由(回答者 192 名／複数回答可)



(5) 関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動の分野を複数回答で尋ねたところ（図5）、最も多かったのは「児童分野 100 名」で、次に多かったのが「祭り・イベント 99 名」であった。

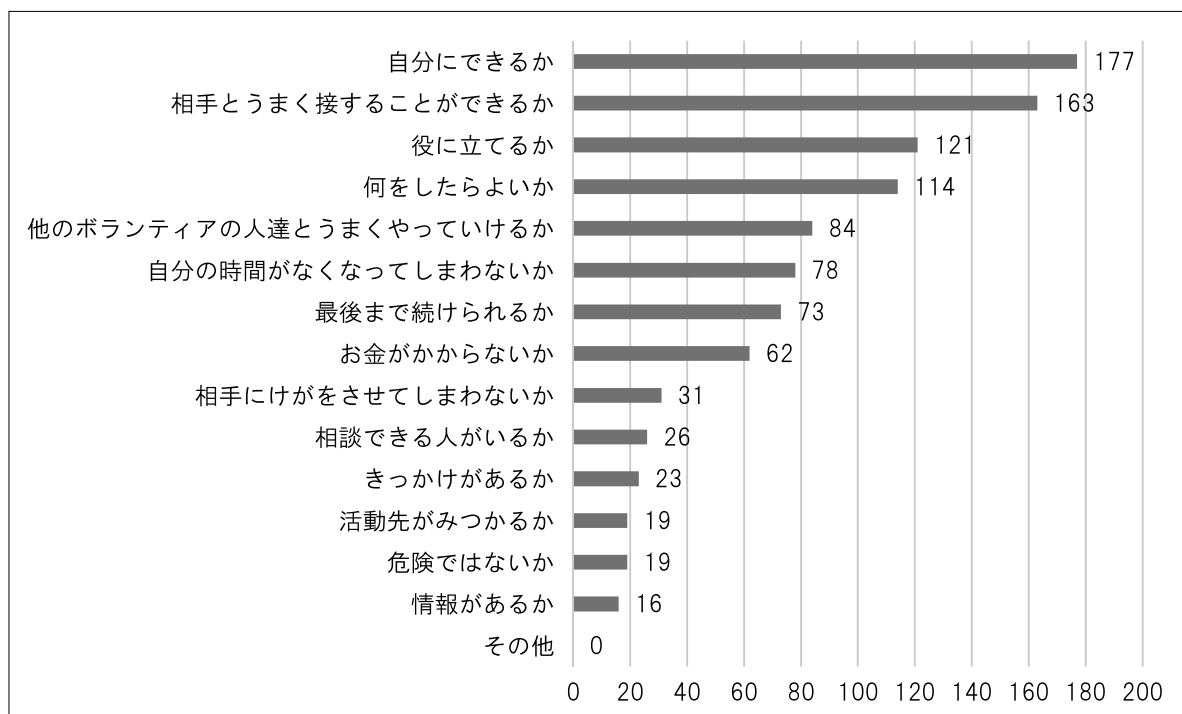
図5. どのようなボランティアに関心があるか(回答者 351 名／複数回答可)



(6) ボランティア活動を始めるとの心配や不安

こちらの問いも、複数回答にて尋ねたところ（図6）、「自分にできるか 177 人」「相手とうまく接することができるか 163 人」「役に立てるか 121 人」「何をしたらよいか 114 人」の4項目が上位を占めた。

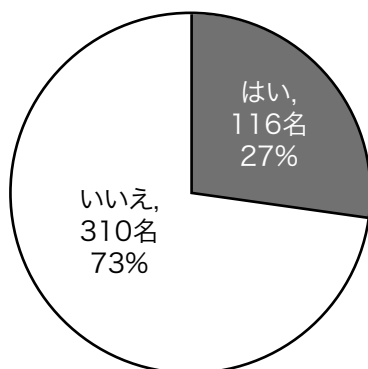
図6. ボランティア活動を始めるとの心配や不安(回答者 351 名／複数回答可)



(7) ボランティアセンターの認知度

ボランティア活動支援センターの存在を入学時に認知していた新入生の割合は 27%であった（図7）。

図7. 入学前に、ボランティア活動支援センターを知っていたか

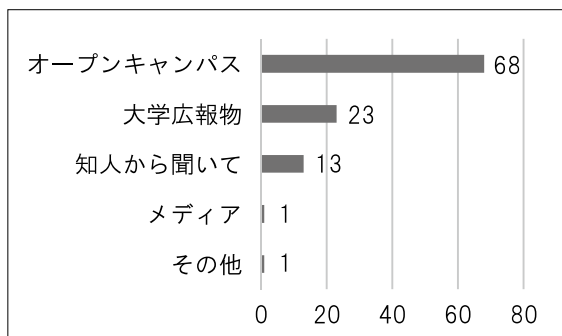


(8)入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか

図7で「はい」と答えた方を対象に、入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったかを尋ねたところ、多かったのは「オープンキャンパス 68名」続いて「大学広報物 23名」であった。

図9. 入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか

(回答者 116 名／複数回答可)



センター年間行事一覧(主催・共催・協力事業等)

月	日	概要
2018年4月	4日	第67回センター運営委員会
	16日	「新歓ボラ Tea」実施
	21日～22日	ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト7」実施 (岩手県釜石市)
5月	7日	第68回センター運営委員会
	14日、15日	「ボランティア・まちづくり助成」応募説明会
	26日	オープンキャンパス参加
	28日～ 6月18日	学生サポートメンバー養成講座(計4回実施)
6月	6日	第69回センター運営委員会
	9日	「ほたる祭り」実施
	16日	「ボランティア・まちづくり活動助成」公開審査会実施
	23日	オープンキャンパス参加
7月	4日	第70回センター運営委員会
	11日	「七夕ボラ Tea」実施 「オリンピック・パラリンピックボランティア応募説明会」 実施
	16日	ハンセン病勉強会
	21日	オープンキャンパス参加
8月	3日～6日	ボランティアスタディツアー「よいさっ!プロジェクト5」 実施(岩手県釜石市、宮城県石巻市)
	4日、17日	オープンキャンパス参加
	7日～8日	釜石〇〇プロジェクト合宿(岩手県釜石市)
	28日	ハンセン病資料館見学会(東京都清瀬市)
	31日～ 9月2日	釜石「キッズかけっこ教室」(岩手県釜石市)
9月	15日	オープンキャンパス参加
	21日	学生ボランティア対象 SDGs 研修会
10月	3日	第71回センター運営委員会
	22日	さいたま北商工協同組合主催「さいたま KI-TA まつり 2018」協力(さいたま市北区)
11月	2日、3日	ヴェリタス祭(学園祭)にて「ボラフェス!2018」実施
	7日	第72回センター運営委員会
	10日、11日	上尾市主催「第45回上尾産業祭」参加
	24日	上尾消費生活展実行委員会主催「第36回上尾消費生活展」 参加

11月	24日	認定NPO 法人彩の子ネットワーク共催 「子育てサロンが生まれる日」上映会&交流会
	30日～ 12月2日	ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト 8」実施 (岩手県釜石市)
12月	2日	釜石〇〇プロジェクト「第1回夢探しプロジェクト」実施 (岩手県釜石市)
	5日	第73回センター運営委員会
	15日	上尾市大谷地区自主防災連合会「防災啓発研修」共催
	17日	「ボラ年会」実施
2019年1月	9日	第74回センター運営委員会
	11日	「ボランティア・まちづくり活動助成」報告会
	12日	地域活動支援センターベルベッキオ共催交流会実施
2月	6日	第75回センター運営委員会
	16日	埼玉県防災学習センター／ 未来をひらく～3.11 から～実行委員会共催 ボランティアサミット「未来をひらく～3.11 から～」実施
	17日	認定NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク主催 「学生によるオレンジリボン運動」全国大会に学生が出場
	26日	釜石〇〇プロジェクト「防災授業」実施(岩手県釜石市)
3月	5日～6日	学生サポートメンバー強化合宿実施
	6日	第76回センター運営委員会
	11日	「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」実施
		「未来をひらく～3.11 から～」合同募金プロジェクト
	12日	聖学院中学高等学校生徒会主催 「3.11 いま僕たちにできること」実施協力
	17日	NPO 法人彩の子ネットワーク主催 「こども☆夢☆未来フェスティバル2019」参加
	21日	「ボランティアの集い」実施
	30日	釜石〇〇プロジェクト「第2回夢探しプロジェクト」実施 (岩手県釜石市)

各事業報告

1. ボランティアの人材育成とその担保に関する事業

(1)学内ボランティア団体の育成支援

センターでは個人のボランティア相談のほかに、団体の活動相談にも応じている。活動に関するアドバイスや役立つ情報の提供に限らず、必要に応じてファシリテーターとして団体の会議に出向くこともしている。

主な相談内容：

- ・組織運営に関すること
- ・メンバー間のコミュニケーションに関すること
- ・新入生のまきこみ方
- ・メンバーのモチベーションアップに関すること
- ・広報に関すること
- ・イベント出展内容に関して など

(2)学生サポートメンバー養成講座(7期)の実施

学生と共につくる・育つセンターとして力を入れている、学生サポートメンバー（通称：サポメン）の養成も7期目を迎えた。サポメンは、ボランティアを実践している学生自身が、他の学生を巻き込み、ボランティアのきっかけをつくるとともに、学内外の学生ボランティアを盛り上げるための企画・運営を行う役割が期待されている。そのため、現役サポメンの協力も得て養成講座を実施し、サポメンとして必要となる考え方や基礎的な知識・技術を体験的に学び、終了後はサポメンとして活躍していけるよう支援している。同時に講座を通して、受講生同士・先輩サポメン・コーディネーター・他大学の学生との関係づくりも図っている。今年度は、十文字学園女子大学ボランティアセンターの学生スタッフが参加し、大学間の情報交換の場ともなった。

i)企画概要

① 第1回「学生サポートメンバーの役割と可能性」

初回ということで、なぜサポメン養成講座を実施しているのかボランティア活動支援センタースタッフより説明し、さらに現在サポメンとして活動する先輩より活動の意義と魅力を紹介した。後半では、学生のボランティアの一步を後押しする策を考え、発表。受講生たちは「サポメンになる」その大きな一步を踏み出した。

日 時：2018年5月28日（月）18：00～20：30

参加者：7期生6名、現サポメン2名

十文字学園女子大学ボランティアコーディネーター1名 参加者計9名

内 容：・サポメン講座趣旨説明（サポメンとボラセンの歴史、役割、願い）

・現役サポメンから「サポメンの活動と魅力」について一言

・参加者全員の自己紹介（アイスブレイク）

※現サポメンがファシリテーションを担当。

・ワーク：テーマ「ボランティアの一步踏み出せない原因と解決策を考えよう」

② 第2回「アイスブレイク100連発！？&助成金審査会にむけて」

前半は、ボランティア活動の場で出会った人たちの緊張感をほぐし安心して活動に取り組むことができるよう、各所で取り入れられているアイスブレイクについて学んだ。「アイスブレイ

クとは？」というレクチャーのあと、ボランティア先などで使えるアイスブレイクを参加者全員が実際に進行的した。

そして後半は、第3回に控えている「ボランティア・まちづくり活動助成金事業公開審査会」に向けて、事業の紹介を行った後、サポメンの関わりについて説明を行った。

日 時：2018年6月4日（月）18：00～20：30

参加者：7期生：5名、現サポメン：3名、

十文字学園女子大学学生2名・コーディネーター1名 参加者計：11名

内 容：・レクチャー「アイスブレイクとは？」

- ・アイスブレイクをやってみる
- ・ふりかえり
- ・助成金審査会の説明と役割決め

③ 特別編：「愛着の持てる場づくりを学ぼう」

団体の代表・副代表などリーダーなら必ず悩むであろう活動の場づくり。メンバーが本気になってくれない、会議に来るのはいつも同じメンバー・・・！どうすればよいの？そんな悩みを持ち寄って、場づくりのプロであるNPO法人CRファクトリー代表の呉 哲煥（ご てつあき）さんに講義いただいた。また、この特別編については、サポメン受講生の他、各ボランティア団体や委員会で役割になっている学生にも受講してもらい、研修を行った。

実施日：2018年6月11日（月）18：00～20：30

参加者：7期生：8名、現サポメン：8名、その他団体：8名、

十文字学園女子大学2名・コーディネーター1名 参加者計：27名

講 師：NPO法人CRファクトリー代表 呉哲煥氏

内 容：講義とワーク

④ 第3回「学内外のボランティア活動を知る」

ボランティアをしたい学生を実際の活動につなげるには、学生が参加できるボランティア活動についての情報・理解が不可欠となる。そこで、「ボランティア・まちづくり活動助成金公開審査会」にスタッフとして参加し、公開審査プレゼンテーションを通じて聖学院大生のボランティア活動の取り組みを理解した。また、地域の来場者の皆さんとの交流を通じて、聖学院大学周辺の地域貢献活動への理解を深めた。

実施日：2018年6月16日（土）11：00～17：00

参加者：7期生：9名、現サポメン：3名、

十文字学園女子大学学生2名・コーディネーター1名 参加者計：15名

内 容：同日に行われた「助成金審査会&ドネーションパーティー」において、審査会場ではタイムキーパーや受付補助を体験し、ドネーションパーティーの時間では、インタビューを通して学内・外の来場者の所属している団体について情報を収集する体験をした。

⑤ 第4回「第三回の振り返り&ボランティアコーディネーターロールプレイ」

「ボランティア活動助成金公開審査会」を振り返りながら、「ボランティア活動助成金」の仕組みをもっと学生に活用してもらうためのアイデア出しを行った。後半は、学生スタッフとして実際にどのようにボランティア活動を紹介していくのか、ロールプレイを行った。

実施日：2018年6月18日（月）18：00～20：30

参加者：7期生：5名、現サポメン：2名、

十文字学園女子大学学生2名・コーディネーター1名 参加者計：10名

内 容：・助成金審査会の運営ふりかえり

- ・ボランティア活動助成をより学生に活用してもらうためのアイデア出し・自己紹介とアイスブレイク
- ・ワーク：「友人にボランティアについての相談を受けたら」（コーディネーターロールプレイ）
- ・参加者全員で共有

ii)成果と課題

- ・サポメンとしての具体的なミッションを共有できた。さらに、今年は現サポメンだけでなく、最終回には卒業生のサポメンも加わってくれたため、活動だけでなく、「サポメンとしての想い」の引継ぎが丁寧になされたように感じた。
- ・他大学の学生が毎回参加してくれたことで、客観的に聖学院生&ボラセンの活動を評価してくれたので、回を重ねるごとにサポメンとしてのモチベーションがあがっていくのを感じることができた。
- ・学年・学科・大学を超えて共通の目的をもった仲間ができた。ここから、新しいサポメンのカタチを創出していきたい。



(3)視野を広げるボランティア教養講座の実施

社会の課題と向き合うための教養講座を立ち上げ、学生たちとともに社会の諸問題と向き合い、学ぶ機会を持っている。

i)「人間回復への道～ハンセン病から学ぶ～ハンセン病勉強会と資料館見学会」

ハンセン病は感染力が弱く非常にうつりにくい病気である。しかし、治療薬がない時代には変形をおこしやすいことから主に外見が大きな理由となり社会から嫌われてきた。強制的に療養所に入れられた患者は外出を禁止され、隔離されてきた。第二次世界大戦後、完治する治療薬が登場しても、実質的な隔離状態が続いた。

今日では、この隔離状態は解かれ、回復者たちには社会復帰の道が開かれているものの、今なお世間の無理解や偏見が続いている。

「人に偏見を持ち差別をする」といった過ちを繰り返さないためにも、この歴史的事実を「他人事ではなく、自分たちの問題」として捉え直し、考える時間を学生や教職員と持った。

またこの企画は、聖学院中学高等学校図書館と連携のもと実施した。

主催：聖学院中学高等学校図書館／聖学院大学ボランティア活動支援センター

① 勉強会

日程：2018年7月16日（月）18：00～20：30

場所：聖学院大学

参加者：聖学院大学学生：4名、教職員：5名、聖学院中高教員：1名

参加者計10名

内 容：・ハンセン病に関する講義（講師：聖学院中学高等学校 西浦昭英教諭）

・関連DVD鑑賞

・感想の共有

② 見学会と意見交換

日程：2018年8月28日（火）12：50～17：00

場所：多磨全生園・国立ハンセン病資料館

参加者：聖学院大学学生：7名、教職員：8名

聖学院中学高等学校生徒：2名、保護者・家族：3名、教員：3名

参加者計：23名

内 容：・資料館見学（資料映像の鑑賞含む）

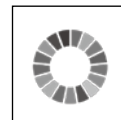
・園内散策

・森元ご夫妻のお話

・感想の共有

案 内：聖学院中学高等学校 西浦昭英教諭

ゲスト：森元 美代治さん（NGO IDEA ジャパン代表）、森元美恵子さん



（4）「学生ボランティア対象 SDGs 研修会」の実施と冊子の発行

学校法人聖学院は2018年4月、グローバル・コンパクトに署名・加入した。全学でSDGs推進に取り組みはじめたことを契機として、日頃ボランティア活動に取り組む学生たちに自身の活動とSDGsが掲げる目標を照らし合わせ、活動をより豊かにすることを目的とした研修会を実施した。また、この研修会を汎用性のあるものにするため、内容をまとめた冊子を研修の開発に協力いただいたNPO法人エコ・コミュニケーションセンター代表の森良氏と共同で発行した。

i）「学生ボランティア対象 SDGs 研修会」

日程：2018年9月21日（金）10：00～15：20

場所：聖学院大学 1cafe

対象者：ボランティア・まちづくり活動助成金助成団体

参加者：学生 19 名（9 団体）

講師：NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター代表 森良氏

内 容：・アイスブレイク

- ・ワーク①「わたしがやりたいことと世界の課題（SDGs）」
- ・ワーク②「自分たちの活動を発展させるための課題や活動の場を持続可能で豊かなものにするために必要なことを考えよう」
- ・発表
- ・ふりかえり

ii) 自分とみんなの幸せをつくる「ボランティア／市民活動と持続可能な世界(SDGs)」の発行

発行日：2019 年 2 月

発行部数：500 部（うち 250 部をセンターで所有）

内 容：・この冊子の使い方

- ・〈解説・SDGs のココロ〉誰も取り残さない
ー参画とパートナーシップが世界を変える
- ・「マイ SDGs ワークショップ」のすすめかた
- ・聖学院大学ボランティア・社会貢献グループの紹介
- ・聖学院大学ボランティア活動支援センターの紹介

2. 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業



(1) 学生サポートメンバー(サポメン!)との連携

学生サポートメンバー（通称：サポメン!）は、聖学院大学におけるボランティアの活性化を目的として組織され、現在はサポメン5期生～7期生を中心に、自分たちにできる活動を検討している。本年度は地域から依頼のあったイベントへ参加した他、「ボラ Tea」「ボラ年会」等の活動に取り組んだ。また、センター主催で開催された「ボランティア・まちづくり活動助成事業公開審査会 & ドネーションパーティー」の実施について連携を図った。

i) ボラ Tea

学内・外で聖学院生が組織している団体の活動を紹介する場を設けることを目的に、4月、7月の2回実施した。4月はボランティア活動未経験者へのアプローチを意識しつつ、すでに活動中の学生同士の交流もできるような内容で実施した。

① 「新歓ボラ Tea」

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の紹介と勧誘等を行った。

日 時：2018年4月16日(月) 16:00～19:00

場 所：1号館地下1cafe

内 容：聖学院生が関わっているボランティアグループの紹介、仲良くなれる TeaTime

発表団体：聖学院大学ボランティアアソシエーション【グレイス】、復興支援ボランティアチーム

【SAVE】、STEP、Heart&Smile、FLC、ムーミンの会、ここ輪、

サポメン、(外部団体による直接説明：伊那谷こども村)

来場者数：学生 68 名（発表者以外の来場者数 44 名）



② 「七夕ボラ Tea」

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の紹介と勧誘、また 2020 年に実施される東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア募集の案内等を行った。

日 時：2018年7月11日(水) 11:50～13:00

場 所：1号館地下1cafe

内 容：・学内団体によるボランティア募集

・夏のオススメボランティアの紹介

- ・ボランティアをするにあたって諸注意
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア募集
- ・各ブースでのフリートーク

発表団体：復興支援ボランティアチーム【SAVE】、STEP、Heart&Smile、
ボラフェス実行委員会、サポメン、
（外部団体による直接説明：さいたま市オリンピック・パラリンピック部）
参加者数：学生 25 名（発表者以外の来場学生 10 名）



iii) ボラ年会

ボランティア団体同士の交流と親睦を目的に、忘年会を実施した。

日 時：2018 年 12 月 17 日（月）18：00～20：00

会 場：1 号館 1 cafe

参加者：学生 30 名

内 容：・ボラセンクイズ
・夕食タイム
・ボラトーク



iv) ボランティア・まちづくり活動助成公開審査会&ドネーションパーティーの運営協力

公開審査会&ドネーションパーティーの運営協力を通じて、来場された地域の方々や申請団体との交流の機会を持った。

実 施 日：2018 年 6 月 16 日（土）

v) 新入生を対象とした宣伝活動

新入生に対し、大学にボランティア活動支援センターがあることと、ボランティア活動の魅力を伝えるべく、入学直後のガイダンス等で、宣伝活動を行った。サポメンの音声を加えたオリジナル映像と、今年も「サポメンジャー」が登場し、ボランティアの魅力を語り、さらに翌週に開催予定のボラ Tea の案内を行った。

・活動内容

「学生支援ネットワーク説明会」での動画を使ったセンター紹介
日程：2018年4月6日（金）



vi) サポメンミーティング、スキルアップ研修実施日程と内容

・ミーティング実施日

毎週1回昼休み、企画に応じて随時ミーティングを行った。

・強化合宿実施日程と内容

実施日：2019年3月5日（火）～6日（水）

場 所：埼玉県県民活動総合センター

内 容：・一年間の振り返り

・次年度の活動計画づくり

・4年生からの想いの継承

・「学生生活ガイダンス」でのボラセン紹介内容の検討、撮影

vii) 行政、市民活動団体との連携

行政や市民活動団体からお声掛けいただき下記の連携活動を行った。

・上尾市消費生活展実行委員会主催「第36回上尾消費生活展」への参加

日程：2018年11月24日（土）

場所：上尾市コミュニティーセンター

内容：サポメンジャーでイベント会場やステージを盛り上げる

着ぐるみボランティア

かえっこバザールの運営補助

viii) 成果と課題

- ・「学生支援ネットワーク説明会」では、サポメンジャー登場が新入生にかなりのインパクトを与え、かつサポメンたちの楽しさを伝えることができた。その結果、「新歓ボラ Tea」は過去最高の来場数となった。さらにそのうちの数名の新入生からは、サポメンになりたいという相談があった。
- ・「セタバラ Tea」では30分ほどフリータイムを設け、各々が関心のある団体と話ができるように企画した。そのなかでも、サポメンたちが学生コーディネーターとして、親身になってボランティア相談にあたってくれていたのが印象的であった。新たに加わった7期生の活躍もあり、話を聞きに来てくれた学生たちの、新しい出会いと挑戦の後押しをすることができた。
- ・「ボラ年会」は昨年に比べ、参加者の呼びかけ不足は否めなかったものの、活動者間で新たな交流が生まれるなど実りある時間となった。また、これまではボランティアグループに所属する学生のための参加であったが、今年度は個人ボランティアとして頑張っていた学生も参加してくれていた。

(2) 授業等への協力

聖学院大学では、ボランティアをテーマにした授業が複数実施されている。教員より依頼を受けて、下記の授業にてボランティア活動支援センターの紹介やコーディネーターの職能などについて話をした。

日にち	授業名	対象学生	担当教員	講義内容
4月27日(金)	国際ボランティア論 A	欧米文化学科	金沢はるえ講師	センターの紹介と身近なボランティアについて
5月23日(水)	共生社会総論	心理福祉学科 1年生	田村綾子教授	
6月7日(木)	釜石学	全学	渡辺正人教授	震災とボランティアー阪神淡路大震災から東日本大震災を巡って
6月14日(木)				東日本大震災とボランティア活動ー本学も含めて
6月28日(木)				釜石市における復興支援ボランティア活動
10月22日(月)	専門演習 I (精神保健福祉論)	人間福祉学科2年生	相川章子教授	センターの紹介と身近なボランティアについて
11月15日(木)	ボランティア概論	政治経済学部他	川田虎男講師	ボランティアコーディネーターの役割
	ボランティア論 B	心理福祉学部他		
1月9日(水)	社会福祉援助技術演習	社会福祉士を目指す2年生	長谷部雅美助教	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動をするにあたって ・春休みにできるボランティア紹介



(3) ボランティア・まちづくり活動助成事業の実施

i) 実施概要

活発にボランティア活動に取り組む学生が一人でも増えること、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力=プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の取り組みについて知っていただくことを目的として本事業を実施している。また本事業はボランティアグループに限らず、教育活動の一環として地域にかかわるゼミについても本助成金の活用が広がるよう推進している。実施にあたっては本学同窓会と共催し、学生たちへの助成金 30 万円の支援をいただいた。

また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できる「ドネーションパーティー」を導入し、学生と地域の方々が直につながるきっかけづくりに取り組んでいる。

ii)実施内容

①実施スケジュール

日にち	実施内容
2018年 5月14日(月)・ 15日(火)	説明会兼研修会 応募を予定している学生グループを対象に応募概要の説明とプレゼンテーション講習を行った。
6月16日(土)	公開審査会&ドネーションパーティー 第1次審査では申請団体のプレゼンテーションと書類をもとに、審査委員、学生審査委員(各申請団体)が審査、ポイント数によって助成金の交付、未交付を決定。さらに2次審査では交付団体への助成金額を審査委員で話し合い、発表を行った。 また、直接学生を応援できるドネーションパーティーを開催し、来場者と申請団体の学生たちとの交流会も実施した。
2019年 1月11日(金)	活動報告会 助成金交付団体による活動報告会を実施。審査委員をはじめドネーションパーティーに参加した地域の方々にも来場いただいた。審査委員には各活動について講評をいただき、後日学生たちへフィードバックした。

②審査委員

NO	選出枠	肩 書	氏名(敬称略)
1	大学同窓会	役員	鈴木雄亮
2	ボランティア応援 卒業生	メディカルソーシャルワーカー	浅野早百合
3	地域の方	上尾市ボランティア連絡会会長	本城文夫
4	地域の方	さいたま北商工協同組合 副理事長	新井一年
5	専門家(NPO 関係)	NPO 法人埼玉情報センター 事務局次長	秋本創
6	専門家 (ボランティア関係)	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	山田清美
7	大 学	副学長 ボランティア活動支援センター所長	平修久
8	大 学	地域連携・教育センター運営委員	春木豊

③ 申請内容と助成額

NO	団体名	事業名	申請額	獲得 ポイント	決定額	寄付金	合計
1	アップー応援隊	上尾市のゆるキャラ「アップー」を媒介にした地域の子どもとの交流会	32,000 円	11	32,000 円	7,000 円	39,000 円
2	ムーミンの会	新しいあしが未来へつながる	50,000 円	9	40,000 円	11,000 円	51,000 円
3	Discovery あげお	上尾市まちなか賑わいマップ作成事業	50,000 円	7	32,000 円	15,000 円	47,000 円
4	パワフルキッズ	しらこぼと遊び広場	40,000 円	6	28,000 円	9,000 円	37,000 円
5	Heart&Smile	より多くの地域の方に笑顔届け、つながりをつくる	50,000 円	10	45,000 円	9,000 円	54,000 円
6	聖学院大学防犯ボランティアチーム STOP!	防犯啓発プロジェクト	50,000 円	13	50,000 円	15,000 円	65,000 円
7	empower	フェアトレード	50,000 円	6	28,000 円	19,000 円	47,000 円
8	聖学院大学復興支援ボランティアチーム【SAVE】	スタディープチツアー	50,000 円	10	45,000 円	24,000 円	69,000 円
合計				72	300,000 円	109,000 円	409,000 円

iii) 助成金を受けた主な団体の活動実績

① 聖学院大学防犯ボランティアチーム STOP! 助成額：50,000 円

埼玉県警、上尾警察のサポートを受けながら、地域の安全を守るため、毎週、大学周辺のパトロールを行っている。また、子どもたちの防犯意識の向上のため、ヴェリタス祭で防犯グッズ制作のコーナーを設け、好評を博した。上尾警察とともに防犯啓発活動も行った。



② アップー応援隊 助成額：32,000 円

上尾市のゆるキャラ「アップー」と一緒に市内の保育園・幼稚園を回り、園児との交流を図る上尾市との協働プロジェクトを継続している。子どもたちとの関わり方など、日頃の学びを活かす機会となっている。子どもたちに大変好評で、継続のリクエストを受けている。



③ Heart&Smile 助成額：45,000 円

毎年参加している「あげお産業祭」で、前年の実績を買われて企業と連携し、グレードアップした遊びの場を提供できた。また、「子ども☆夢☆未来フェスティバル」でも継続して遊びの場を提供し、こどもたちの笑顔と保護者の方々から感謝の言葉をいただいた。



④ empower 助成額：28,000 円

留学生と日本人学生が、バングラディッシュやネパールなど、立場が弱い開発途上国の生産者支援のためのフェアトレードを学び、国際協力 NGO シャプラニールを通じて商品を仕入れ、上尾ワールドフェアやヴェリタス祭で販売した。好評でほぼ完売した。



iv) 助成事業に関わった方々の声

① 申請団体の声

- ・助成金のおかげで私たちの活動が成り立ち、なんにでも挑戦ができます。毎年ありがとうございます。
- ・このプロジェクトを通して、上尾の良い所について、みなさんに知らせることができました。自分でもさまざまな役に立つ経験を積むことができました。
- ・わたしたちのことを信じて、応援していただきまして、ありがとうございます。
- ・私たちの活動の幅が広がることにより、子どもや高齢者の方々に少しでも防犯について知っていただき、地域防犯の一翼を担えることを感謝しています。

② 審査委員・地域の方の声

- ・大学のある地域のことを知るきっかけとして「食」や「スポット」をまとめた冊子は、手に取りやすく、興味がわくと思いました。
- ・とても学生っぽくて面白い。留学生がたくさんいる中でやったことに意味があると思う。
- ・企業との連携は大変だけど、とても良い体験だったと思います。立場の違いの中で、共同作業は今後、役に立ちますよね。取り組みと広がりを楽しみにしています。
- ・行政と連携して活動しているのは良いと思います。子どもと触れ合う機会もあり、勉強になると思いました。
- ・子どもだけではなく、お年寄りの方々も一緒に参加できるイベントを行っているところが良かった。口コミで情報が広まり、参加人数が毎年増えているとお聞きして、すごいと思った。

v) 成果と課題

- 今年度は、昨年に引き続き助成事業を申請した団体が6団体、新規申請団体が2団体であった。多くの団体でメンバーが代替わりするタイミングで、事業申請自体が、団体の活動目的や事業計画を見直し共有する良い機会になっていることを、申請書作成やプレゼンテーションのリハーサルの支援を通して、強く感じた。
- 審査会当日は学生たちの頑張りが花開き、複数の審査員から「みんなプレゼンテーションが上手で驚いた」という嬉しい講評をいただくことができた。特に今年度は、留学生の頑張りが目立った。留学生だけでプレゼンテーションを行った団体が2団体あり、積極的な姿勢が好印象であった。
- 審査会の司会は、昨年度本学を卒業したサポメンが担ってくれ、運営は現サポメンが協力、来場者には卒業生の顔も多く、学生たちが支え合う暖かな雰囲気の会となった。また、地域の方々以外に、十文字学園女子大学、明星大学からの参加者もあり、他大学との良い交流の機会にもなった。
- 課題としては、新規の申請団体が少ないことが挙げられる。ゼミやサークルにも積極的に案内し、挑戦する学生が増えるよう努めたい。



(4) 聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金

i) 実施概要

東日本大震災の被災地における復興支援ボランティア活動に取り組む本学の学生に対して交通費の補助を行っている。

① 補助の概要

- 1年間に2回まで東日本大震災に関わるボランティア活動の交通費について、15,000円を上限に補助を行う。
- 補助に当たっては、事前に申請を行い、センター運営委員会にて決定する。
- 補助を受ける者は、「活動証明書」「領収書」「活動レポート」の提出が求められる。

ii)実 績

年間利用件数	のべ29名	
年間補助総額	384,400円	
主な活動先	三陸ひとつなぎ自然学校（岩手県釜石市）	9名
	東北教区被災者支援センター・エマオ（宮城県仙台市）	7名
	田野畑村立若桐保育園／たのはた児童館（岩手県田野畑村）	3名

3. 復興支援ボランティア事業

復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト5」参加レポートより

6月に復興支援ボランティアチーム【SAVE】主催のプチツアーに参加して、初めて岩手県釜石市を訪れた。震災から7年経って初めての被災地であった。多くの被災地を見学した。その時の見学の最中に見た、高台からの景色や、海の目の前で聞いた津波の話や津波の映像、使っていない仮設住宅の見学など、どれも印象的・衝撃的で忘れることが出来ないものだった。「釜石よいさ」という祭りに興味をひかれたのもあるが、もう一度、2か月前に見た景色を見たいという思いがあり今回のプロジェクトに参加した。

今回、私が、釜石市を訪れたのは、2回目だ。前回、行ってから2か月程しか経っていないが、高台に登った時に見た景色の変化を感じられたし、2か月前よりも復興住宅の数が多くなっていたことや、建物の建築作業も進んでいて、どんどん復興は進んでいると思った。しかし、それは目に見える形での復興である。鶴住居地区のお年寄りの方々との交流活動や宮城県石巻市にある旧大川小学校でのフィールドワークを通じて、一生、震災で傷ついた心の傷は消えないし、消せるものではないということを感じた。また、釜石市では、人口の減少、高齢化なども大きな課題となっている。

「東日本大震災で壊滅的な被害を受けた町は、もう元の町には戻らない、しかし、新しい町を作ることが出来る。新しい町が出来ていくことにより、災害の記憶は薄れていく。だから、私たちには、色々な方法を使って災害を伝えていくという責任がある」。震災当日、高台で津波の映像を撮っていたNHKの徳田さんの話の中の一部だ。私は、この言葉が胸にとっても響いて忘れられない。

この4日間で多くの方々から、話を聴いた。その中で、徳田さんの、被災地の人たちの伝え続けていかなければならないという思いと、前を向いて進んでいこうという思いが感じられた。

釜石へは2回目の訪問だが、釜石のことがとても好きになった。私1人の力は、大きくないし、みんなを動かせるようなものでもないが、釜石のことを知らない人に魅力を伝えていき、少しでも知ってもらい興味を持ってもらうことは出来ると思う。自分も、大学4年間で、釜石へもっと足を運んで、少しずつ町が復興していく過程を見続けていきたいと思う。

心理福祉学科1年 五之内 菖 (2018年8月)



(1) 東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアーの実施

2011年8月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施している。今年度は、春、夏、冬と、計3回のツアーを実施した。実施にあたっては、岩手県釜石市を拠点に活動する一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校の現地コーディネート協力と、釜石市の後援を受けている。釜石市とは、2014年1月に連携協定を締結している。

また、ツアーの企画と運営は学内のボランティア団体「復興支援ボランティアチーム【SAVE】」と協働で取り組んだ。

i) 桜プロジェクト

釜石市鶴住居地区における生活再建への支援の一環として学生発案による「桜プロジェクト」が2012年の初めに立ち上がり、さいたま市北区盆栽町にある「清香園」の協力を受け、「盆栽桜を届ける」企画として実現。今回は鶴住居地区生活応援センターにて地域の方々との交流会を開催し、来場された方々に盆栽桜80本を贈呈した。さらには、新しく整備された復興住宅における植樹や、釜石のまちづくりに関わる同世代との交流会を実施した。

また、今回のプロジェクトは一般学生への募集はせずに、復興支援ボランティアチーム【SAVE】と教職員で実施した。

① 募金活動の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】が主体となって、盆栽桜購入と植樹のための募金活動を行った。活動には、聖学院高等学校生徒会メンバーも駆けつけ協力してもらった。

- ・募金日時：2018年3月11日(日) ※昨年度実施
- ・実施場所：JR 大宮駅西口
- ・募金総額：29,800円
- ・参加人数：学生11名、聖学院高等学校生徒会7名、他大学学生1名 計19名

② ツアーの実施

- ・ツアー日程：2018年4月21日(土)朝～22日(日)夕方 現地集合・解散
- ・活動場所：岩手県釜石市鶴住居地区
- ・宿泊：4/21 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- ・活動内容：
 - 盆栽桜贈呈と地元の方々との交流会（鶴住居地区生活応援センター）
地元の方々とお茶会や盆栽桜の贈呈を行った。
 - 盆栽桜の植樹
復興公営住宅や自立再建された個人宅の敷地内にて盆栽桜の植樹を行った。
 - 同世代交流（鶴住居地区生活応援センター）
「釜石の20代でつながろうぜ!の会」の方々との意見交流を行った。
 - 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い
かつて盛んだった原木しいたけ栽培の復活にむけて栽培や林の整備に取り組むプロジェクトのお手伝いを行った。
- ・参加者数：学生9名、教員1名、職員2名 計12名



ii) よいさっ！プロジェクト5

震災から2年の2013年8月に復活した釜石の夏の風物詩である「釜石よいさ」に踊り手として参加することと、こどもあそびのイベント「かまっこ★あそびーらんど」の実施をメインとしたプロジェクト。今年度は自由の森学園高等学校、聖学院中学高等学校の生徒も参加した。

① プロジェクト会議の実施

本学（復興支援ボランティアチーム【SAVE】）と自由の森学園高等学校内でプロジェクトリーダーを選出。プロジェクトリーダーと3校の教職員で月1回程度の合同会議を実施。また本学においては週1回ペースでプロジェクトリーダー会議を独自に行った。さらには現地の下見を本学のプロジェクトリーダーと3校の教職員で行い、ツアーのプログラム作りを行った。

- ・合同会議：5月19日(土)、6月23日(土)、7月14日(土)
- ・プロジェクトリーダー会議：5月16日(水)、23日(水)、30日(水)、6月6日(水)、13日(水)、20日(水)、27日(水)、7月4日(水)、11日(水)、18日(水) 毎回2時間半程度 計10回
- ・下見：7月7日(土)～9日(月)

② ツアーの実施

- ・ツアー準備会：7月18日(水)
- ・ツアー事前学習会：7月21日(土)
- ・ツアー日程：8月3日(金)朝～6日(月)夜
- ・活動場所：岩手県釜石市鵜住居町・大只越町・宮城県石巻市ほか
- ・宿泊：8月3日(金)～5日(日) 釜石市民交流センター（岩手県釜石市）
8月5日(日)～6日(月) 浜辺の料理宿宝来館（岩手県釜石市）
- ・活動内容：
 - ―被災地見学と現地カメラマンのお話（釜石港周辺、釜石市民交流センター）
2011年3月11日に何か起きたのか。東日本大震災当日釜石の人々が避難した釜石港を見渡す高台にのぼり、震災当時この高台に避難する方々を撮影されたNHKカメラマン徳田憲亮（のりあき）さんに高台を案内いただいた後、釜石市民交流センターに移動して震災当時のことやこれまでの歩みをお話しいただいた。
 - ―選択活動①（2つの活動から1つ選択）
 - i. 鵜住居地区生活応援センター周辺ののぼり旗・プランター設置と交流会
鵜住居地区生活応援センター周辺の住民の方々や釜石シーウェイブスの選手と、2019年に開催されるラグビー大会に向けて来場者を歓迎するための花のプランターづくりと設置、のぼり旗の設置を行った。また活動のあいだに食事も含む交流会を実施した。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

かつて盛んだった原木しいたけ栽培の復活にむけて栽培や林の整備に取り組むプロジェクトのお手伝いを行った。

— 「釜石よいさ」への参加

震災以前から、釜石の夏の風物詩として行われてきた夏祭り「釜石よいさ」。2013年、釜石の若手を中心に復活させた、この祭りを釜石の方々とともに踊り手として参加した。

— 選択活動②（3つの活動から1つ選択）

i. 「かまっこ★あそびーらんど」の開催

釜石の子どもたちが思いっきり遊べるイベントを学生・高校生中心に運営した。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

iii. 被災地見学と根浜海岸の清掃

震災から3年後の2014年春に復活した三陸鉄道南リアス線に乗車し、釜石から大船渡市にかけての三陸海岸沿いの町を車窓から見学した。その後、「製鉄の町」として知られている釜石の歴史を紹介する「鉄の歴史館」を見学。午後は、震災当時甚大な被害を受けながらも人々の手によって復活した根浜海岸の松林の清掃と、根浜地区の皆さんや宝来館の宿泊者が震災当時避難した「命の道」を見学した。

— 宝来館女将のお話

震災当時津波で大きな被害を受けながらも、一時のあいだ宿を開放し近隣住民の方の避難所運営にあたり、宿の復旧後は釜石の復興のみならずラグビー大会の誘致活動やワイン造りなどアイデア豊かに動かれてきた岩崎女将に震災からこれまでの歩みと今後のまちづくりの展望をうかがった。

— 旧大川小学校フィールドワーク

石巻市立旧大川小学校では、震災時に発生した津波で多くの児童、教職員が犠牲となった。なぜ子どもたちの命を救えなかったのか。子どもたちの命がいま、問いかけていることは何か。現在、語り部として活動されている佐藤敏郎先生に校舎を案内いただきながらお話をうかがった。

— 活動のふりかえり（8/5夜、帰りのバス内）

・参加者数：聖学院大学	学生 28 名、教員 5 名、職員 4 名	
聖学院中学高等学校	生徒 4 名、教員 1 名	
自由の森学園高等学校	生徒 11 名、教員 1 名	合計 54 名

③ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】と自由の森学園高等学校のプロジェクトリーダー、聖学院中学高等学校の生徒と3校の教職員ともに振り返りの時をもった。

日時：8月29日(水) 13:00～16:00



iii) サンタプロジェクト8

毎年の恒例となった釜石・大槌郷土料理研究会のお母さんたちに教わる郷土料理づくりや、サンタプロジェクトをはじめた2011年から毎年実施している「こどもクリスマス会」など交流をメインとした活動のほか、海岸の清掃、原木しいたけ再生のお手伝いなどを実施した。また、夏に続き自由の森学園高等学校の生徒が参加した。

① クリスマスカードの製作

学生がデザインしたオリジナルのクリスマスカードを製作し、ツアーに参加する学生のメッセージを記入したものを、ツアー中に出会った方々にプレゼントした。



② プロジェクト会議の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】内でプロジェクトリーダーを選出。そのプロジェクトリーダーとともに、週1回程度、企画会議を開催、ツアーのプログラム作りを行った。

- ・企画会議：10月11日(木)、18日(木)、25日(木)、11月8日(木)、15日(木)、22日(木)、28日(水) の毎回2時間半程度 計7回

③ 1年生必修授業内でのツアーPR実施

8分のツアー紹介動画を作成し、1年生の必修科目「キリスト教概論」授業を中心に、動画上映とコーディネーターや復興支援ボランティアチーム【SAVE】の学生からツアーの宣伝を行った。

④ ツアーの実施

- ・ツアー準備会：11月22日(木)
- ・ツアー日程：11月30日(金)夜～12月2日(日)夜
- ・活動場所：岩手県釜石市鶴住居町ほか
- ・宿泊：11/30 車中 12/1 釜石市民交流センター
- ・活動内容

― 事前学習 (11/30 夜)

― 被災地見学 (旅館「宝来館」裏・命の道、東日本大震災身元不明者納骨施設ほか)

2011年3月11日に何が起きたのか。一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤総さんに伊藤さん自身が震災当日避難した旅館「宝来館」裏・命の道をガイドいただいたほか、仙寿院の一角に保管されていた身元不明者の遺骨が現在安置されている納骨施設を訪れた。

— 選択活動①（2つの活動から1つ選択）

i. 現地の方々との郷土料理づくり（橋野町 橋野ふれあいセンター）

釜石・大槌郷土料理研究会のお母さん方に釜石に伝わる郷土料理の作り方を伝授いただき、教わったことを後日レシピにまとめてお届けした。

ii. 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

かつて盛んだった原木しいたけ栽培の復活にむけて栽培や林の整備に取り組むプロジェクトのお手伝いを行った。

— 仙寿院住職のお話と津波伝承の駆け上がり競争（仙寿院）

震災当時、避難者の受け入れや、亡くなられた方々の供養にあたられていた仙寿院住職柴崎恵應（えのう）さんにお話を伺った。そして、東日本大震災の記憶を千年先の未来に伝えることを目的に2014年から毎年開催されている「韋駄天競争」を実際に体験した。

— 選択活動②（3つの活動から1つ選択）

i. 「こどもクリスマス会」（鶴住居地区生活応援センター）

鶴住居地区の子どもたちを対象に学生企画のクリスマス会を行った。

ii. 「みんなでかだっぺし」（釜石市民ホール TETTO）

「釜石の地元の中学生在が将来を考えるきっかけとして、様々な大人と出会い語らう場を企画したい」という釜石の高校生企画に参加・協力を行った。

iii. 「海岸林清掃」（根浜海岸）

旅館「宝来館」前に広がる根浜海岸では、「海辺の暮らし、風景を守っていこう」と地元の方々を中心に様々な活動が行われている。その活動の一環で、松林の清掃活動を行った。

— 活動のふりかえり（12/1 夜、12/2 帰りのバス内）

- ・参加者数：聖学院大学 学生 27 名、教員 3 名、職員 5 名
- 自由の森学園高等学校 生徒 3 名、教員 1 名 合計 39 名

⑤ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】プロジェクトリーダーとともに振り返りの時をもった。

日時：12月20日（木）



iv) 成果と課題

- ・震災から8年を経て、釜石では翌年のラグビーワールドカップ2019を控え復興に向けて急速に変化をしていることを実感する一年となった。特に会場となる鶴住居地区では、スタジアムの建設等、新しい街づくりが進んでいる。仮設住宅も2017年度で原則終了となり、復興住宅や自立再建への引っ越しが加速している。

- 2011 年から関わり続けている私たちにとっても関わり方の変化を求められる一年となった。最も象徴的だったのは毎年盆栽桜をお届けしてきた桜プロジェクト。「仮設住宅で暮らす人がいる限りは桜を届け続けてほしい」との現地の方の声を受け止め継続してきた、盆栽桜のお届けについても今回で最後のお届けとなった。
- いわゆる支援活動という枠組みから、釜石の方々と交流しながら、一緒になって取り組む活動への比重がより強まっていることを実感している。同時に、釜石だけに留まらず、石巻市の旧大川小学校でのフィールドワーク等、震災で起きたことを心に刻む時間をこれからも大切にしていきたい。
- 今後も、現地の復興とニーズの変化に寄り添いながら、活動を展開していきたい。



(2)釜石「キッズかけっこ教室」の実施

本学における東日本大震災復興支援活動の一環として、陸上競技部では、2014 年より部員有志が岩手県下閉伊郡田野畑村にてスポーツボランティアを実施している。その実績を岩手県釜石市より評価いただき、社会福祉法人愛泉会かまいしこども園の園児を対象とした「キッズかけっこ教室」を陸上競技部とボランティア活動支援センターの共催により実施した。

- 日程：8 月 31 日(金)～9 月 2 日(日)
- 活動場所：釜石市立釜石小学校ほか
- 宿泊：釜石市民交流センター
- 活動内容
 - ー 前日準備
 - ー かけっこ教室
 - ー 被災地見学（釜石市鶴住居町、上閉伊郡旧大槌町役場、大槌町文化交流センター、蓬萊島）
- 参加人数：陸上部員 3 名、陸上部顧問 1 名、職員 1 名 計 5 名



(3)釜石の高校生×聖学院生による釜石〇〇プロジェクトの実施

このプロジェクトは、コミュニティサービスラーニングⅡの授業活動の一環として、釜石の高校生と受講生の学生が、釜石のまちを盛り上げるプロジェクトの企画を立て、その実現については、ボランティア活動として位置付け活動を展開した。実施に当たっては、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）協議会と共催し、釜石市の後援をいただいた。



i) プロジェクトを考える合宿（コミュニティサービスラーニングⅡ授業の一環）

- 日程：8 月 7 日(火)―8 日(水)

- ・場所：青葉ビル（岩手県釜石市）他
- ・宿泊：8/7 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- ・内容：釜石の高校生の思いを受け、釜石を盛り上げるためのプロジェクトを立ち上げるための現地調査と企画会議。2 日間の話し合いを受け、「中学生へのキャリア教育」「小学生への防災教室」を目的とした企画が出来上がった。
- ・参加人数：学生 3 名（内授業履修者 2 名）、岩手県立釜石高校生徒 2 名、教職員 1 名

ii) 計画したプロジェクト実現のための準備

- ①「埼玉（大学）×釜石でのネットテレビ会議」
 - ・日程：2018 年 9 月～2019 年 3 月 1 回ペースで実施
 - ・内容：8 月の合宿で企画した内容についての実現に向けた話し合い、各プロジェクトの進捗共有とともに実現に向けた打ち合わせを行った。
- ②「釜石を訪問しての集中ミーティング」
 - ・日程：2019 年 1 月 6 日(日)
 - ・場所：青葉ビル他
 - ・内容：2 月に実施する防災講座に向けた、当日の流れや具体的な内容についての詰め等。
 - ・参加人数：学生 2 名、岩手県立釜石高校生徒 2 名

iii) 実施したプロジェクト

- ① 中学生向けキャリア教育の実施

高校で受けたキャリア教育の重要性の実感から、「中学生にももっと多様な大人たちと出会い自分の進路（キャリア）について、早いうちから考えてもらおう機会を作りたい」という高校生の思いから、中学生を中心とした若者と大人（多様な職業人）との出会いの場づくりを企画した。

 - ・日程：12 月 2 日(日) 中学生のキャリア教育 第一回「夢探しプロジェクト」実施
2019 年 3 月 30 日(土) 中学生のキャリア教育 第二回「夢探しプロジェクト」実施
 - ・場所：両日とも釜石市民ホール TETTO
 - ・内容：トークフォークダンスという手法を用いて、大人と中高校生が一对一で語り合う場を作った。1 人の大人とは 2 分でチェンジすることで、多様な大人のリアルな声を聴く機会を作ることができた。
 - ・参加人数：第一回：学生 11 名、岩手県立釜石高校生徒 2 名、教職員 3 名
第二回：学生 3 名、岩手県立釜石高校生徒 2 名
 - ・備考：第一回実施の際は、サンタプロジェクト 8 のプログラムの一つ「みんなでかだっぺし」として連携し、当日は運営だけでなく参加者としても多くの学生が関わった。
- ②小学生向け防災授業の実施

東日本大震災がおきた時、小学 3 年生で内陸側の小学校であったため津波の被害には合わなかったものの、津波への認識が足りず沿岸部にいたら自分も被災していたとの思いから、「山側の小学生にも津波への危機意識を高め自分の身を守るようになってほしい」と考えた高校生の思いをもとに、津波でんでんこの考え方を始め、津波への理解や心構えを伝える防災教室を、本人の母校である釜石市立甲子小学校の 4 年生に向けて実施した。

 - ・日程：2 月 25 日(月) 前日リハーサル
2 月 26 日(火) 防災教室の実施・これまでの活動のふりかえり
 - ・場所：釜石市立甲子小学校
 - ・宿泊：2/25 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
 - ・内容：震災当時小学生だった時の記憶をもとに、体験談を小学生に伝えとともにクイズ形式で地震や津波への備えについてわかりやすく理解できる授業を行った。
 - ・参加人数：学生 4 名、岩手県立釜石高校生徒 2 名、教職員 2 名

- ・備考：前年度の取り組み（高校生による小学生への防災講座）が大きな注目を集めたこともあり、今年度は企画づくりの段階から多くのメディアから取材依頼があった。具体的には、NHK、テレビ岩手、読売新聞、毎日新聞、岩手日報、復興釜石新聞からの取材があり報道された。



(4)「東日本大震災を覚えて～礼拝と集い～」の実施

震災から8年となる2019年3月11日に、東日本大震災で亡くなった方、また現在も復興に向けて努力されている皆様を覚え、祈りの時とこれからを共にどう歩んでいくかを考える機会を持った。

i)実施概要

実施日：2019年3月11日（月）14：15～15：30

実施場所：チャペル

参加者数：約40名

ii)実施内容

- ・礼拝と発災時刻に合わせ14時46分に全員で黙祷
- ・学生・教職員による被災地の関わりのこれまでとこれからについて報告
- ・まとめと大学としての今後の方向性について



(5)関連機関との連携

i)聖学院中学高等学校高校生徒会主催「3.11 いま僕たちにできること」への協力

高大連携の一環として、聖学院中学高等学校の中高生徒会より、東日本大震災を覚える時間を持ちたいという相談を受け、企画や運営について支援を行った。

- ・日程：2019年3月12日（火）
- ・内容
 - 震災関連映像上映
 - 大学での取り組み紹介
 - 大学生による被災地の現状報告と活動紹介（協力：復興支援ボランティアチーム【SAVE】、STEP）
 - 高校生による震災ボランティア体験報告
 - 教員による東日本大震災のお話
 - 今、自分たちに何ができるかグループワーク



ii)「東日本大震災を風化させないプロジェクト」の実施

2015年3月11日に聖学院中学高等学校生徒会企画の「2015.3.11 いま僕たちにできること」への運営協力がきっかけとなり、学生が次世代(高校生)に東日本大震災を語り継ぐプロジェクトを実施している。

日にち	場所	実施内容	実施体制
2018.10.5	埼玉県立蓮田松韻高等学校	学生による震災時の話と現在の活動紹介	学生2名 職員1名
2018.12.12	都立世田谷総合高等学校	学生による震災時の話	学生1名 職員1名

iii)「未来をひらく～3.11 から」実行委員会への協力

埼玉県防災学習センターより、東日本大震災復興支援活動に携わる大学生と連携し、関連イベントを企画したいとの相談を受け、実行委員の呼びかけや、情報提供、ミーティング時のファシリテーションなどのノウハウ協力を行った。

2018年10月に桜美林大学、立教大学、立正大学、聖学院大学の学生たちによる「未来をひらく～3.11 から～」実行委員会が発足。2019年2月にはボランティアサミット「未来をひらく～3.11 から～」、3月には大川伝承の会への募金活動を行う「合同募金プロジェクト」が実施された。

①実施体制

- ・主催：埼玉県防災学習センター
- ・共催：未来をひらく～3.11 から～実行委員会/聖学院大学ボランティア活動支援センター
- ・協力：一般社団法人 Smart Survival Project/
立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター
- ・「未来をひらく～3.11 から～」実行委員会構成団体
立教大学新座キャンパス復興支援ボランティア Three-S/桜美林大学 SLC-V/
立正大学熊谷キャンパス学生個人ボランティア/聖学院大学 STEP/
聖学院大学復興支援ボランティアチーム SAVE/埼玉県防災学習センター/
立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター/
聖学院大学ボランティア活動支援センター

②活動スケジュール

日にち	活動内容	場所
2018年 10月23日(火)	第1回実行委員会	さいたま市市民活動サポートセンター
11月27日(火)	第2回実行委員会	埼玉県防災学習センター

12月11日(火)	第3回実行委員会	さいたま市市民活動サポートセンター
12月15日(土)	ボランティアサミット当日に登壇される佐藤敏郎先生、只野哲也さんが出演するKIDS NOW JAPAN 主催講演会に実行委員の学生が登壇。また、佐藤先生、只野さんとの顔合わせを実施	ライフコミュニティ西馬込
2019年 1月8日(火)	第4回実行委員会	さいたま市市民活動サポートセンター
2月7日(木)	・JCOM さいたま訪問 ・埼玉県庁記者クラブにて記者発表 ・第5回実行委員会	JCOM さいたま 埼玉県庁 聖学院大学
2月15日(金)	前日準備	埼玉県防災学習センター
2月16日(土)	ボランティアサミット「未来をひらく～3.11から～」	埼玉県防災学習センター
3月1日(金)	実行委員会振り返り	さいたま市市民活動サポートセンター
3月11日(月)	合同募金プロジェクト	大宮駅
3月14日(木)	実行委員の学生より佐藤先生へ「大川伝承の会」への募金額 83,576 円を直接お渡しした。	旧大川小学校

③当日の概要

- ・日時：2019年2月16日（土） 11：00～17：00
- ・会場：埼玉県防災学習センター そなえ3階 研究室
- ・参加人数：学生約50名、一般70名、合計120名
- ・活動展示（9大学6中高）
大学：桜美林大、立正大、立教大、成蹊大、高崎健康福祉大、中央大、東北大、北星学園大、聖学院大
中学・高校：埼玉県立栗橋北彩高校、埼玉県立常盤高校、自由の森学園高校、東北学院中学・高等学校生徒会執行部、明治学院東村山高等学校、聖学院中学・高等学校
- ・当日のスケジュール
11:00～12:00 佐藤敏郎さん×只野哲也さん講演会
12:00～13:00 休憩
13:00～14:00 佐藤敏郎さん×只野哲也さん×学生ボランティア“未来をひらく”座談会
14:00～15:30 グループワーク（高校生・大学生限定）
15:30～17:00 懇親会（グループワーク参加者のみ）
- ・プログラム内容
プログラム1）佐藤敏郎さん×只野哲也さん講演会
講演者：佐藤敏郎先生、只野哲也さん
佐藤先生と只野さんから、震災当日の様子や、その後の大川小学校の保存・解体の議論について、当時のメディアの映像を交えながらお話があった。

プログラム2-1) 埼玉、東京で活動する学生の活動報告

活動報告者：畠山玲耶（桜美林大学1年）、姫野愛菜（聖学院大学1年）

2名の学生から、これまでのそれぞれの活動の取り組み、被災地に関わっての学び、そして未来をどう開いていくかという問いについて、報告・発表された。

プログラム2-2) 佐藤敏郎さん×只野哲也さん×学生ボランティア“未来をひらく”座談会

登壇者：佐藤敏郎先生、只野哲也さん、畠山玲耶、姫野愛菜

コーディネーター：川田虎男（聖学院大学ボランティア活動支援センター）

埼玉・東京の学生の取り組みの報告、被災地での学び、そして被災地での気づきや学びを今後どのように「未来をひらく」ことに繋げていきたいかということについて、畠山さん、姫野さんの思いが伝えられた。※「未来をひらく」という言葉は大川小学校の校歌のタイトルであり、そこからイベントの名称にもつながった。

その後学生からの発信を受け、只野さんから、活動する学生の被災地への思いと、自身の地元に対する思いが一緒ではないかという話があった。活動する学生からは、「被災者」と「支援者」という立場で考えるのではなく、「震災を未来に繋げたい」という同じ思いを持った者としてこれからも向き合い、活動を広げていきたいというメッセージが伝えられた。

佐藤先生からは、「復興」と「風化」について、「復興が進むことが、風化が進むということでもいいのか」、また、過去の震災を自分事として捉え、悲劇を繰り返さないために、「発災前に教訓を伝えていくにはどうしたらよいのか」という次のワークショップや、今後の活動にも繋がる問いをいただいた。

プログラム3) グループワーク

参加対象：埼玉を中心とした首都圏の復興支援に関わる・ないし関心のある大学生・高校生

参加人数：約50名（10大学2高校）

全体ファシリテーター：川田虎男・芦澤弘子（聖学院大学ボランティア活動支援センター）

グループファシリテーター：学生実行委員

ワークの内容：私たちが東日本大震災から教えてもらったこと、学んだこと

その教えや学びから私たちは「どのような未来をひらいていくのか？」

また、「その未来をどのようにひらいていくのか？」

プログラム4) 懇親会（グループワーク参加者のみ）

懇親会では、前半にトークフォークダンスタイム、後半はフリートークタイムとして、他大学の学生と交流を深めた。



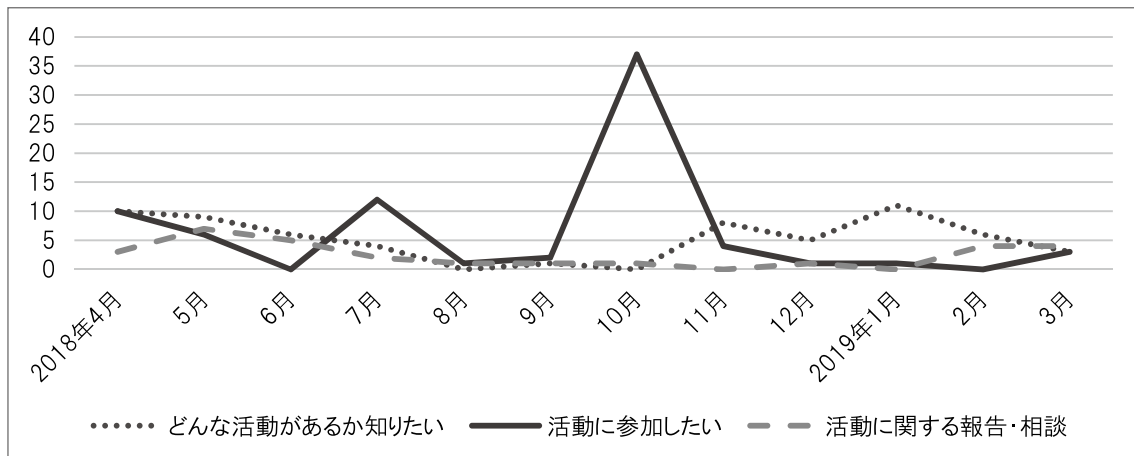
4. 学外のボランティア活動の紹介とその活動の支援に関する事業

(1) ボランティアコーディネート業務

大学1号館地下1階“地域共生広場1cafe”の相談窓口にて、平日12:10～16:00はボランティアを希望する学生の相談や、学生ボランティアを募集したい近隣諸団体のボランティア担当者から相談などを受けた。ボランティア活動への一歩が中々踏み出せない学生の後押しや、ボランティア活動への参加を希望する学生と活動先のマッチング、活動のステップアップのフォローなど、多岐にわたる相談に応じてきた。

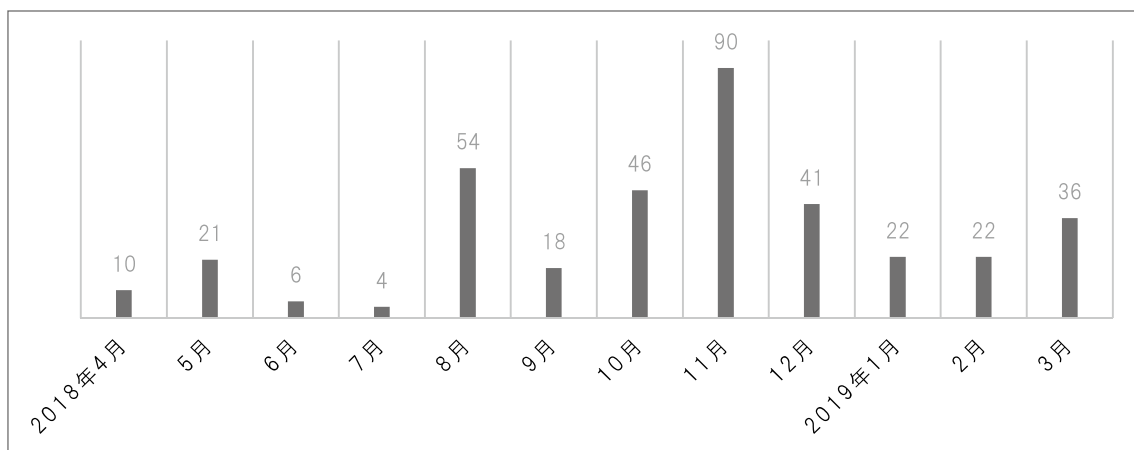
i) 個人ボランティア相談件数と相談内容

相談件数 169 件内訳



ii) 新規ボランティアマッチング件数と活動内容

① 月別マッチング者数 のべマッチング件数 370 件内訳



② 主なマッチング先

月	マッチング先
4月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト7」 県外：NPO 法人 iPledge、高円寺びっくり大道芸 2018
5月	県内：アートフルゆめまつり、日進公民館、尾山台団地「みんなの健康カフェ」 わこう・あそびの森、第20回上尾市障がい者作品まつり 県外：NPO 法人 iPledge、
6月	学生団体主催：ほたるまつり 県内：てらこや新都心 県外：NPO 法人 iPledge、伊那谷こども村
7月	県内：てらこや新都心 県外：NPO 法人 greenbird、伊那谷こども村
8月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト5」 県内：認定 NPO 法人 彩の子ネットワーク、第47回大宮日進七夕まつり、 一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク、てらこや新都心、 子どものまち キッズ西区 2018、尾山台団地「みんなの健康カフェ」、 児童養護施設若竹ホーム、 県外：伊那谷こども村、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ
9月	センター主催：釜石「キッズかけっこ教室」 県内：第18回元気あっぱフェスタ(上尾市)、日進公民館、てらこや新都心 社会福祉法人美鈴会パストーン浅間台、第38回上尾市ふれあい広場
10月	大学主催：しらこばと団地ハロウィンイベント 県内：こども食堂「とまと」、てらこや新都心、上尾市ヨシ原たんけん隊、 さいたま市国際ふれあいフェア 2018、 社会福祉法人美鈴会パストーン浅間台、 尾山台・原市・瓦葺 多文化交流フェア 2018、 さいたま KI-TA まつり 2018 県外：NPO 法人 iPledge、一般社団法人マツリズム
11月	センター主催：ボラフェス 2018 県内：上尾市消費者啓発活動、こども食堂「とまと」、上尾特別支援学校、 尾山台団地「みんなの健康カフェ」、第45回あげお産業祭、 認定 NPO 法人 彩の子ネットワーク、さいたま市植竹児童センター、 国立病院機構東埼玉病院、第36回上尾消費生活展 県外：神楽坂まち飛びフェスタ
12月	センター主催：復興支援ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクト8」 県内：上尾市大谷地区防災講座、宮原青年クラブサンタクロースイベント NPO 法人 チャリティーサンタ、社会福祉法人 いーはとーぶ 国立病院機構東埼玉病院 県外：日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ
2018年1月	センター主催：医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」との交流会 県内：こども食堂「とまと」、てらこや新都心、 認定 NPO 法人 彩の子ネットワーク、 県外：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校

2月	県内：植竹地区子ども音楽祭、尾山台団地「みんなの健康カフェ」、医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」 埼玉県立日高特別支援学校、認定NPO 法人彩の子ネットワーク、国立病院機構東埼玉病院 県外：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
3月	大学主催：しらこぼと団地春まつり 県内：ドナルドマクドナルドハウス、さいたま市市民活動支援センター、国立病院機構東埼玉病院、社会福祉法人皆の郷川越いもの子作業所、こども☆夢☆未来☆フェスティバル、社会福祉法人いーはとーぶ、さいたま市植竹児童センター、 「未来をひらく〜3.11 から〜」合同募金プロジェクト 県外：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校

ご対応してくださった団体の皆様、大変お世話になりました。

(2)「夏の“ちょっと”ボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン

i)企画内容

各市町村の社会福祉協議会や市民活動センター等では、毎年夏の時期に様々なボランティア活動を体験することができる「夏のボランティア体験プログラム」を開催している。このプログラムの紹介を通じて、一人でも多くの学生にボランティアの機会をつくと同時に、プログラムの周知を通じて「ボランティアは誰でも関わることのできる身近なもの」という雰囲気や大学内に育むことを目指している。現在の傾向としては、春の「新歓ボラTea」をきっかけに活動する学生が多いため、夏は個別相談の中で初めてボランティアに参加する学生を応援していく形をとっている。

ii)実施内容

キャンペーンのチラシを作成し、主にキリスト教必修科目の授業内でチラシ配布を行い、呼びかけを行った。

iii)相談者数

- ・相談者数：13名
- ・夏ボラ期間活動者数：のべ19名



(3)「ボラフェス！2018」の実施

i)実施概要

実施日：2018年11月2（金）、3日（土）10時～15時

実施場所：聖学院大学エルピス食堂

来場者数：1日目：154名、2日目：733名 のべ887名

学生実行委員：14名

当日ボランティア：13名

ii)実施内容

① 福祉施設等の活動紹介と商品販売

聖学院卒業生の就職先や、普段学生達がボランティアでお世話になっている福祉施設を中心にお招きし、活動紹介、ボランティア募集、商品の販売などを行った。

ー11月2（金）出店団体

- ・NPO 法人リトルポケットあとりえふぁんとむ
- ・社会福祉法人あらぐさ福祉会労働と教育の場「雑草」
- ・認定NPO 法人彩の子ネットワーク
- ・医療法人大壮会地域活動支援センターベルベッキオ
- ・社会福祉法人あげお福祉会 多機能型事業所プラスハート
- ・EMPOWER（欧米文化学科サベットのゼミ）
- ・マゴソスクールを支える会

ー11月3日（土）出店団体

- ・医療法人大壮会地域活動支援センターベルベッキオ
- ・社会福祉法人一麦福祉会 ワークスみぎわ
- ・NPO 法人みのり
- ・社会福祉法人皆の郷第2川越いもの子作業所
- ・NPO法人みやはら福祉会ひびき
- ・生活介護施設 とさき
- ・EMPOWER（欧米文化学科サベットのゼミ）
- ・マゴソスクールを支える会

②こども遊びコーナー

今年は防犯パトロールチームSTOP！が「防犯キーホルダー」づくりのコーナーや「巨大お絵かきコーナー」を実施した。

③オレンジリボン運動の啓発活動

今年は事前学習会として、認定NPO 法人彩の子ネットワークにご協力いただき、「子育てサロンが生まれた日」のDVD上映会とシェアリングの時をもった。ボラフェス当日では、そのDVDの感想に合わせて、「子育てにやさしい社会」の実現を願い、「私を支えてくれたあなたへ」というタイトルのメッセージボードを用意し、来場者にも記入してもらった。

iii)参加団体・学生の声

①参加団体からの声（一部抜粋）

- ・販売することができたのはもちろんのこと、当施設を知っていただく機会にもなり、大変ありがとうございました。
- ・ボランティアの学生さんたちに大変お世話になりました。自ら積極的に動いてくれて、とても心強かったです。
- ・普段の販売イベントでは、関係者や中高年のお客様が多いなか、若い学生の方に事業所の商品やメンバーの様子を知ってもらう貴重な機会となりました。

②実行委員の学生の声（当日の感想から一部抜粋）

- ・参加団体の方と新しいつながりができた。
- ・参加団体さんとたくさんコミュニケーションがとれた。

- ・来場者の方が、買ったものを SNS に「かわいい♡お気に入り」といって投稿されている様子を見ることができた。「福祉施設だから買う」のではなく、「かわいい、ほしいから買う」という感じがとても嬉しかった。

iii)成果と課題

- ・来場者数の少なかった初日も含めて参加団体の商品の売り上げは大変好調で、各団体から喜びの声を頂いた。
- ・2 日目は、700 名を超える方にご来場いただき、こどもコーナーも終始にぎわっていた。学生達もやりがいを感じることができたのではないかなと思う。
- ・今年は認定 NPO 法人彩の子ネットワークに事前学習の段階からご協力いただいたおかげで、学生にとってもよき学びの時間となった。オレンジリボンブースに作成した、「私を支えてくれたあなたへ」は、お母さま方からは「普段、我が子へ感謝の気持ちを伝えることがあまりないので、新鮮でした。私のもとに生まれてきてくれてありがとう！」とのコメントが寄せられたり、小さなお子さんも自分で頑張って記入してくれている様子が印象的であった。



(4)地域イベントへの参画

上尾市やさいたま市等で行われるイベントについては、企画段階から関わることが増えてきている。学生も担い手の一人としての自覚を持ち参加することで、学生と地域との顔の見える関係が育まれつつある。

i)地域イベントへの参加実績と参加内容

日にち	依頼元／イベント名	参加内容	参加人数
8月25日	尾山台団地 「みんなの健康カフェ」	コーナー企画・運営	4名
9月30日	第38回 上尾市ふれあい広場	こどもあそびコーナーの 企画・運営	8名
10月22日	さいたま北商工共同組合／ さいたま KI-TA まつり 2018	会場設営・運営	24名
11月10日、11日	上尾市商工課／ 第45回あげお産業祭	梅田スクリーン印刷株式会社と連携したこどもあそび コーナーの企画・運営、アカ ペラ部によるステージパフ ォーマンス	34名
11月24日	上尾市消費生活センター／ 第36回上尾消費生活展	レンジャー・着ぐるみでの会 場内企画PR、かえっこバザ ール担当	11名

2019年 2月18日(月)	埼玉県立日高特別支援学校/ 小学校低学年対象防災授業	「防災戦隊マモルンジャー」 ヒーローショーと交流企画	12名
3月17日	認定NPO 法人 彩の子ネットワーク/ 「こども☆夢☆未来フェス ティバル」	あそびコーナーの企画・運営	12名

(5)行政、市民活動団体との連携事業

つながりのある行政や市民活動団体と連携事業を行った。



i) さいたま市との連携による「ボランティアが世界をつなぐ 2020 オリンピック・パラリンピックボランティア 応募説明会」の実施について

2020年夏に開催される「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」について、埼玉県での競技会場周辺で来場者をもてなす都市ボランティアを募集することが2017年に決定したことを受けて、さいたま市より「大学コンソーシアムさいたま」に所属する各大学に学生への都市ボランティア募集周知について協力の依頼があった。これを受けて、学生を対象とした説明会をさいたま市オリンピック・パラリンピック部の協力を得て実施した。

実施日：2018年7月11日(水) 10:40～11:40

場 所：聖学院大学7401教室

対象者：全学科1・2年生、2020年在学予定の全学生

参加者：学生28名、教職員10名 計38名

実施体制：主催：聖学院大学ボランティア活動支援センター

共催：欧米文化学科、児童学科、心理福祉学科、こども心理学科、人間福祉学科

協力：さいたま市

内 容：・さいたま市 オリンピック・パラリンピック部 による 概要説明

・ボランティア活動支援センターによる応募方法の説明

ii) 認定NPO法人彩の子ネットワークとの連携による「子育てサロンが生まれる日」上映会&交流会と「学生によるオレンジリボン運動」全国大会の出場について

毎年ボラフェスのなかで、こども虐待防止「オレンジリボン運動」を実施してきた。今年のボラフェス実行委員長となった学生が認定NPO法人彩の子ネットワークで活動しており、そこで観たドキュメンタリー動画「子育てサロンが生まれる日」に感銘を受けた。「今年のボラフェスでは、関わる学生みんなにこの動画を見てもらい、児童虐待をNO!と否定するのではなく、日々子育てを頑張っているお母さんたちの声に寄り添い、現状を知って考えるきっかけにしていきたい」との想いを彩の子ネットワークの方にお伝えしたところ、快諾してくださり、事前学習会とボラフェス実施後に、子育て世代のお母さまたちと学生との合同上映会&交流会を実施する運びとなった。

さらには、この取り組みを広く発信することを目的として認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク主催「学生によるオレンジリボン運動」全国大会にエントリーし、出場を果たすことができた。

①「子育てサロンが生まれる日」上映会&交流会

実施日：2018年11月24日(土) 15:00~17:30

場 所：聖学院大学1号館地下1c a f e

参加者：認定NPO 法人彩の子ネットワークメンバー等8名

高校生1名(就労体験をきっかけに参加)、学生6名、職員2名 計17名

実施体制：主催：認定NPO 法人彩の子ネットワーク/聖学院大学ボランティア活動支援センター

共催：ボラフェス2018実行委員会

内 容：・あいさつ

- 認定NPO 法人彩の子ネットワーク共同代表 鈴木玲子さん

- ボラフェス2018 実行委員長/人間福祉学科4年 長嶋実咲さん

・「写真から子ども達の想いを感じよう」

・「子育てサロンが生まれる日」上映会

・みんなで語ろう〜ディスカッション&シェアリング〜

・終了



②「学生によるオレンジリボン運動」全国大会の出場

日にち：2019年2月17日(日)

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

出場者：ボラフェス2018 実行委員長 長嶋実咲さん(人間福祉学科4年)ほか学生2名



iii)「地域活動支援センターベルベッキオとの交流会」

昨年に引き続き、精神障がいを抱えた利用者さんと、福祉を学ぶ学生たちとの交流会を下記の通り実施した。企画準備に関しては、昨年の企画に参加した学生や、人間福祉学科小沼ゼミの学生が主体的に取り組んだ。

日 程：2019年1月12日(土) 9:30~16:30

場 所：聖学院大学1号館地下1c a f e

参加者：ベルベッキオメンバー8名、ベルベッキオスタッフ4名、学生11名、教職員4名
計27名

内 容：・もちつき、トン汁づくり

・交流プログラム(オリジナル福笑い、巨大書初め、上尾郷土かるた、トランプ)

・書初めに書いた今年の抱負や感想のシェア



(6)学外団体からの相談対応

今年度は、新規での問い合わせも増え、学生たちの新たな活動がはじまる可能性にあふれた1年となった。

i)学外団体相談対応件数

79件内訳

月	来訪	TEL	MAIL	その他
2018年4月	1	5		
5月	7	7	1	3
6月	7	5	1	
7月	3	7		
8月	3	2	1	
9月		2		1
10月		2	1	2
11月	5	1		
12月	1	2	1	
2019年1月				
2月	1	1		1
3月	3	1	1	
合計	31	35	6	7

(7)コーディネーターのスーパーバイズ

昨年度のセンター発足時から、コーディネーターの日々のボランティアコーディネーションについて、毎週1回（15分～60分程度）スーパービジョンを実施している。困難な調整事例や課題のある学生への対応方法など、コーディネーターが一人で抱え込まない環境づくりができた。また、複数で課題を検討することで、様々なアイデアが生まれ、よりよい支援や活動につなげることができた。

■スーパーバイズ：毎週1回15分～60分

5. ボランティア活動の記録と広報に関する事業

(1) ボランティア情報の発信(メルマガ・LINE@・ホームページ・facebook・掲示板)

i) ボランティア掲示板でのボランティア情報の紹介

大学1号館地下1階“地域共生広場1cafe”に相談窓口とあわせて設置している「ボランティア掲示板」にて、学内外のボランティア情報のポスターを掲示し、学生への周知を行った。

ii) メールマガジン・LINE@の配信

センターでは、配信希望者に月1回～3回程度、不定期で「おすすめボランティア情報」をメールマガジンとLINE@で配信している。

・メールマガジン登録者数(2019年3月現在)

学科	1年	2年	3年	4年	合計
政治経済	27	46	22	9	104
欧米文化	15	13	6	10	44
日本文化	20	11	9	4	44
児童	9	6	10	15	40
こども心理		3	8	9	20
人間福祉		12	7	16	35
心理福祉	20				20
合計	91	91	62	63	307

・LINE@登録者数 190名(2019年3月現在)

・メールマガジン・LINE@配信実績

月	配信回数	月	配信回数
2018年4月	1	10月	1
5月	2	11月	2
6月	5	12月	2
7月	3	2019年1月	0
8月	4	2月	2
9月	1	3月	2
		合計	25

(2) ボランティア活動支援センター広報活動**i) WEB 上での情報発信**

センターの取り組みを外部へ発信することを目的として、ホームページを設置している。日々の活動については、Facebook ページで紹介している。

・facebook ページ いいね! の数: 379 (2019 年 3 月 31 日現在)

ii) センター広報ツールの更新

センターの存在を学内外に周知することと、学生のボランティア活動を学内外で紹介することを目的に、ポスター等の広報ツールを作成している。

※製作物は資料編 67 ページに掲載

iii) オープンキャンパスへの参加

高校生へ、大学生たちの活躍の様子を直接見てもらうことと、ボランティア活動支援センターの存在を知ってもらうため、オープンキャンパスでセンターの紹介を行った。

内 容: ・ボランティア活動支援センターの紹介

・学生ボランティア団体の活動紹介模造紙の展示・説明

対 応: ボラセンスタッフ

場 所: 1103 教室 (地域連携・ボランティア支援課事務室)

参加日程: 2018 年 5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 21 日、8 月 4 日・17 日、9 月 15 日

6. その他の事業

(1) 視察・研修記録

i) 視察実績

日にち	視察先と目的	参加人数
6月13日(水)	埼玉県防災学習センター 目的：施設見学と情報収集	アドバイザー1名 コーディネーター1名 学生2名

ii) 研修・勉強会参加実績

日にち	研修先・勉強会名等	参加人数
2018年 4月25日(水)	「コミュニティマネジメント基礎講座」 主催：NPO 法人CR ファクトリー 会場：NPO 法人CR ファクトリーオフィス	コーディネーター1名
5月18日(金)	「三陸・釜石はサステイナブル・ツーリズムへ」 主催：NPO 法人日本エコツーリズムセンター 会場：日能研ビル	コーディネーター1名

(2) 視察対応・活動発表・講師対応・外部委員

i) 視察対応

日にち	来訪団体名	来訪人数
2018年 7月24日(火)	埼玉県立蓮田嶺松韻高校	教員1名
	埼玉県南部地域振興センター	職員1名
12月5日(水)	成蹊大学ボランティア支援センター	コーディネーター1名

ii) 活動発表・講師対応

日にち	活動発表先
2018年 6月25日(月)	松実高等学園 内容：学生による活動紹介とグループワーク、 大学生・高校生のトークセッション 講師：川田虎男、丸山阿子、学生4名
9月11日(火)	クラーク記念国際高等学校 内容：学生による活動紹介とグループワーク 発表者：川田虎男、学生6名
9月18日(火)	クラーク記念国際高等学校 内容：学生による活動紹介とグループワーク 発表者：丸山阿子、学生6名
10月27日(土)	聖学院高等学校 内容：ボランティア活動について 講師：川田虎男

12月16日(日)	上尾市社会福祉協議会主催「若者のためのボランティア養成講座」 会場：上尾市コミュニティセンター 内容：ボランティアに関するミニ講義と学生による活動紹介 講師：川田虎男、学生3名
2019年 1月24日(木)	誠和福祉高等学校 内容：ボランティア活動について 講師：川田虎男
2月4日(月)	群馬県社会福祉協議会主催 「平成30年度大学・短期大学・専門学校ボランティア担当教職員等連絡会議」 内容：本学の取り組み紹介 講師：川田虎男、芦澤弘子

iii) 外部委員

氏名	所属委員会
川田虎男	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員 上尾市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員 草加市ふるさとまちづくり応援基金助成事業公開審査会審査委員 草加市自治基本条例検証委員会委員
芦澤弘子	<ul style="list-style-type: none"> NPO インターンシップラボ実行委員 市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2019 実行委員

(3) 学内他部署との連携

i) 総務課と連携した埼玉県立上尾橘高校就労体験の受け入れについて

埼玉県立上尾橘高校就労体験を本学として受け入れ、11月8日(木)～13日(火)の4日間、高校1年生の生徒2名が学内業務を体験した。その中の1日について、当センターで受け入れを行った。

- 受け入れ日程：2018年11月13日(火)
- 受け入れ内容：ボランティア活動に取り組む学生への取材活動と記事作成

ii) 学校法人聖学院 学院広報センター主催記者発表会への協力について

学院広報センターがマスコミを対象として行った「聖学院大学創立30周年、グローバル・コンパクト署名・加入、中長期ビジョンプロジェクト開始を報告する記者発表会」において、学生ボランティアの活動報告と国連の持続可能な開発目標（通称：SDGs）に照らして自分たちの活動がどのような意味を持つかについて日頃ボランティア活動に取り組む学生が発表するにあたり協力をを行った。

- 日程：2018年6月19日(火)
- 協力内容：SDGsと照らし合わせた学生による活動発表のフォロー

(4) 他大学との連携

i) 大学ボランティアセンターコーディネーター研究会

本研究会は、関東圏の大学ボランティアセンターの教職員の研修と情報交換を目的に2013年度に発足し、年1～2回のペースで開催している。

① 大学ボランティアセンターコーディネーター研究会 平成 30 年度 第一回学習会

日時：2018 年 7 月 19 日（木）15:00～18:00

会場：首都大学東京ボランティアセンター

内容：・首都大学東京ボランティアセンター見学

- ・情報交換会
- ラグビーワールドカップと東京オリンピックに向けての対応状況
- 地域連携関連部署との連携と棲み分けの方法について
- 7 月豪雨への対応状況や情報共有

参加校：・首都大学東京ボランティアセンター

- ・神田外語大学ボランティアセンター
- ・中央大学ボランティアセンター
- ・明治大学ボランティアセンター
- ・明星大学きらきらボランティアセンター
- ・東京外国語大学 VOLAS（ボランティア活動スペース）
- ・十文字学園女子大学ボランティアセンター
- ・立正大学ボランティア推進センター
- ・聖学院大学ボランティア活動支援センター

② 大学ボランティアセンターコーディネーター研究会 平成 30 年度 第二回学習会

日時：2019 年 1 月 16 日（水）15:00～18:00

会場：神田外語大学ボランティアセンター

内容：・神田外語大学ボランティアセンター見学

- ・情報交換会
- 学生スタッフ組織について
- 海外ボランティアの支援体制
- 2020 オリパラへの関わり方について

参加校：・神田外語大学ボランティアセンター

- ・十文字学園女子大学ボランティアセンター
- ・中央大学ボランティアセンター
- ・明星大学きらきらボランティアセンター
- ・首都大学東京ボランティアセンター
- ・聖学院大学ボランティア活動支援センター
- ・成蹊大学ボランティア支援センター

陪 席：・東京ボランティア・市民活動センター

(5) ボランティア功労者厚生労働大臣表彰の受賞と「ボランティアの集い」の実施

全国社会福祉協議会の推薦により、「ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰」を 2018 年 11 月 22 日に受賞した。受賞理由として、2000 年に発足したボランティア部会を含め、18 年間の活発なボランティア活動や 2011 年度からの東日本大震災への継続的な支援活動が評価された。

これを受けて、受賞理由である 2000 年以降の活発な学生ボランティアの当事者である卒業生・在学生・教職員を対象とした「ボランティアの集い」を実施した。

日 時：2019 年 3 月 21 日（木）14:00～17:00

場 所：聖学院大学チャペル(活動報告)、エルピス食堂(懇親会)

対象者：学生時代ボランティア活動に取り組んだ人々

現在ボランティア活動に取り組む現役学生

ボランティア活動の応援に尽力した教職員・OBOG

参加者：在学生・卒業生・教職員 計96名

内 容：・聖学院大学のボランティア活動の歩み・現役学生による活動報告

- 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表 伊藤聡さんのお話
- 過去を知る～卒業生による団体立ち上げ時の思いと歩み～
- 現在を知る～現役学生による現在の活動の紹介と悩みごと相談～
- ・懇親会
- コーナー① 活動紹介ムービーコーナー
- コーナー② 各団体の思い出コーナー
- コーナー③ 現役学生の活動展示コーナー
- コーナー④ みんなで年表づくり



資料集

▶（１）聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

（目的）

第1条 聖学院大学(以下「本学」という。)は、聖学院教育憲章内の「神を仰ぎ、人に仕う」、オンリーワン・フォー・アザーズ(他者のために生きる個人)、サーヴァント・リーダーシップなどの精神の具現化のため、キリスト教大学における教育活動の一環として推奨されるボランティア活動の普及に取り組み、本学における諸ボランティア活動を支援するために、聖学院大学ボランティア活動支援センター(以下「センター」という。)を設立する。

（組織）

第2条 センターの活動を円滑に展開するために、次の教職員を置く。

- (1) センター所長 1名
 - (2) センター副所長 若干名
 - (3) ボランティアコーディネーター及びアドバイザー 若干名
 - (4) 事務職員 若干名
 - (5) その他学長が大学教授会で指名した者
- 2 センターの運営は、第3項に規定する聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)によってなされ、センター所長が議長を務める。
- 3 運営委員会は以下の構成員から構成される。
- (1) センター所長
 - (2) センター副所長
 - (3) チャプレン
 - (4) 聖学院大学教授会代表(数名)
 - (5) 聖学院大学学生代表(数名)
 - (6) 大学事務局管理部長
 - (7) ボランティアコーディネーター
 - (8) アドバイザー
 - (9) センター職員
 - (10) 聖学院大学学長、総局長は必要に応じ陪席できるものとする
 - (11) その他、センター所長が必要と認める者
- 4 第1項第1号に規定されるセンター所長は、学長が指名する。
- 5 第1項第2号に規定されるセンター副所長は、所長が若干名を指名する。

（事業）

第3条 センターは、第1条の目的を実現するために以下の事業を担当する。

- (1) キリスト教に基づくボランティア精神の育成と普及に関する事業
- (2) ボランティアの人材育成とその担保に関する事業
- (3) 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業
- (4) 学外のボランティア情報の紹介とその活動の支援に関する事業
- (5) ボランティア基金の育成と経済的支援に関する事業
- (6) ボランティア活動の記録と広報に関する事業

（改廃手続）

第4条 この内規の改廃は、大学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

附 則

この内規の一部改正(規程形式及び運営委員会の構成員の変更)は、2018年12月17日から施行する。

▶（２）ボランティア活動支援センター運営委員一覧(2018 年度)

センター所長	平 修久	副学長、政治経済学科教授
センター副所長	若原 幸範	政治経済学科准教授
運営委員	M. サベット	欧米文化学科教授
	村松 晋	日本文化学科教授
	柴崎 裕	児童学科特任教授
	五十嵐成見	人間福祉学部／心理福祉学部チャプレン、助教
	金谷京子	こども心理学科特任教授
	春木 豊	基礎総合教育部特任講師
	西川 正	地域連携・教育センターアドバイザー
	菅野雄大	学生サポートメンバー、こども心理学科 4 年
	滝野恵基	学生サポートメンバー、こども心理学科 3 年
	島村宣生	地域連携・ボランティア支援課長
	山田 裕太	地域連携・ボランティア支援課
	川田虎男	ボランティア活動支援センターアドバイザー
	芦澤弘子	ボランティアコーディネーター
	丸山阿子	ボランティアコーディネーター

▶（３）ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項

第 67 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 4 月 4 日（水）午後 2 時 00 分～2 時 50 分

- ・ボランティア・まちづくり活動助成事業公開審査会実施の件
- ・学生サポートメンバー（サポメン）養成講座 2018 実施の件
- ・「よいさっ！プロジェクト 5」実施の件
- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

第 68 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 5 月 7 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・釜石市津波の伝承施設における防災プログラムの実施について
- ・ほたる祭り実施の件

第 69 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 6 月 6 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・ボランティアマップ作成の件
- ・被災地インターンシップ申請希望の件
- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

第 70 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 7 月 4 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・ボランティアマップ作成の件
- ・ボラフェス 2018 実施の件
- ・地域活動支援センターベルベッキオとの交流会実施の件
- ・ハンセン病勉強会と資料館見学会実施の件
- ・七夕ボラT e a 実施の件
- ・彩の子ネットワーク主催イベントへの広告掲載の件
- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

第 71 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 10 月 3 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

第 72 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 11 月 7 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・ボランティア活動支援センターの規程改定の件
- ・3. 1 1 を学び「未来をひらく」会(仮)共催実施の件
- ・復興支援ボランティア交通費補助申請の件

第 73 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2018 年 12 月 5 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・2019 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件

第 74 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2019 年 1 月 9 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・ 2019 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件
- ・ 復興支援ボランティア交通費補助申請の件
- ・ 被災地インターンシップの単位認定について

第 75 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2019 年 2 月 6 日（水）午後 3 時 20 分～4 時 20 分

- ・ 東日本大震災 8 年を覚えて～未来への祈り～実施の件

第 76 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2019 年 3 月 6 日（水）【持ち回り開催】

協議事項なし

▶(4)メディア出演・掲載

■NHK 盛岡放送局:2018 年 4 月 21 日(土)放送

復興支援ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト 7」のなかで盆栽桜を釜石の方々にお届けする様子が放映された。

■三陸ブロードネット「ウィークリーダイジェスト」:2018 年 4 月 25 日(水)放送

NHK 同様に「桜プロジェクト 7」の様子が放映された。

■復興釜石新聞:2018 年 4 月 25 日(水)発行

「聖学院大生は「桜プロジェクト」：仮設住宅での活動は今年が最後」著作権により非公開

■復興釜石新聞:2018 年 4 月 30 日(月)発行

「被災地に恩返し: 聖学院大卒の由木さん 内定辞退 釜石で社会人」著作権により非公開

■NHK 盛岡放送局:2018 年 5 月 7 日(月)放送

「好きなんです、いわて」のコーナーにおいて、桜プロジェクトの紹介と活動に関わった学生 2 名の取材内容が放送された。

■埼玉新聞:2018 年 5 月 12 日(土)発行

「復興願い最後のサクラ:聖学院大生ら岩手・釜石に1200本 仮設閉鎖 次の支援へ」
著作権により非公開

■復興釜石新聞:2018 年 8 月 11 日(土)発行

「地元住民とプランターに花植え：聖学院大学生ら鶴住居で支援活動」著作権により非公開

■読売新聞:2018 年 9 月 7 日(金)発行

「内陸の児童に防災教育を：釜石高生と聖学院大生活動プラン発表」著作権により非公開

※2018 年 8 月 8 日(水)に実施した釜石〇〇プロジェクト発表会の様子は、上記新聞記事ほか、毎日新聞にて紹介された。

■NHK 首都圏ネットワーク:2018 年 10 月 5 日(金)放送

埼玉県立蓮田松韻高等学校での菅野雄大さん(当時こども心理学科 4 年)の講演がニュースとして取り上げられた。

■埼玉新聞:2018 年 10 月 22 日(月)発行

「「今の時間を大切に」：仙台出身の菅野さん（聖学院大）蓮田高校生に震災体験語る」
著作権により非公開

■埼玉新聞:2019 年 2 月 11 日(月)発行

「震災考える 学生が企画:16日、鴻巣で催し」著作権により非公開

※2019 年 3 月 16 日(土)に実施した「未来をひらく～3.11 から～」についての報道一覧

■新聞記事

- ・共同通信 2019.2.16「大川小から震災ぶ、埼玉・鴻巣「未来ひらく」きっかけに」
- ・毎日新聞 2018.2.17「大川小の教訓学ぶ」

■テレビ報道

- ・J:COM 埼玉県央

2019.2.7「デイリーニュース」 未来をひらく～3.11 から～ 大学生らがジェイコムを訪問

2019.2.15「デイリーニュース」 未来をひらく～3.11 から～ あす開催

- ・テレビ埼玉

2019.2.7「ニュース545」 埼玉県内学生が企画 東日本大震災の教訓を未来につなぐ

2019.2.20「ニュース545」 特集 学生企画のボランティアサミット 未来をひらく～3.11 から～

■岩手日報:2019 年 2 月 27 日(水)発行

「後輩へ教訓伝える：甲子小出身野呂さん（釜石高2年）行動、津波クイズで出題」
著作権により非公開

※2019 年 2 月 26 日(火)に実施した防災授業の様子は、上記新聞記事ほか、NHK、テレビ岩手、毎日新聞、読売新聞、復興釜石新聞にて紹介された。

▶(5)広報ポスター各種

■学生サポートメンバー養成講座

聖学院のボランティア活動を盛り上げよう！

「ボランティア活動を応援する人」になる！

学生サポートメンバー（サポメン！）7期生 養成講座 2018 受講者募集！！

ボランティア活動支援センターではコーディネーターと協力し、ボランティア活動と学生の架け橋となる「学生サポートメンバー（サポメン！）」として活動するための養成講座を実施します。
「ボランティア活動に励むボランティア」に隣りある皆さんの応援をお待ちしています！

■サポメン1の活動内容(例)

- ・ボランティア活動の相談にのる
- ・ボランティア活動内を統括する（相談コーナー）
- ・ボランティア活動の魅力を伝える（紹介用紙の発行、ボラ Tea の実施など）
- ・他大学の学生との情報交換

などなど・・・活動は、サポメン同士で相談して決めています！

■講座スケジュール

期	日 時	内 容
第1回	5月28日(月) 18:00~20:30 「学生サポートメンバーの役割と可能性」	そもそも、学生サポートメンバーの役割とは、また、サポメンと連携するボランティア活動支援センターについて理解を深めます。
第2回	6月4日(月) 18:00~20:30 「アイスブレイク 100 通案！？」	ボランティア活動で必要となる「アイスブレイク」について知識を身につけます。また、第3回の活動に向けた準備を行います。
第3回	6月16日(土) 10:00~16:00 「春のボラ Tea 活動を知る」 「ボランティア活動支援センター公開説明会」	サポメンの募集や役割の一瞥、ボランティアらしい方法を実際の活動につなげるヒントが盛り込まれています。聖学院や他校の方へのイベントを通して、大学全体のボランティアについて学びます。
特別編	6月11日(月) 18:15~20:45 「量産の待っている活動のづくりを準備しよう！」	外部講師をお招きし、活動の準備や成功の秘訣について知識・技術を身につけ、実践・デザインセッションを用いて意識変容・活動の質の向上を図ります。
第4回	6月18日(月) 18:00~20:30 第3回の振り返りと「コーディネーターロールプレイ」	前半は第3回の振り返りを行い、後半は、ボランティアコーディネーターのロールプレイを行い、ボランティア活動の魅力を伝える練習を行います。

■参加条件

- ・今までに何らかのボランティア経験がある
- ・ボランティア活動を広めたいと思っている

■定員 10名

■受講に関するお問い合わせと申込み

ボランティア活動支援センターまで(1103 教養 1c1cafe 窓口)
TEL:048-780-1705 Mail: vol-sap@seigakuin-univ.ac.jp

サポメン！として活動開始！

私もやら～かな
いいね！

■「ハンセン病勉強会と資料館見学会」

主催：聖学院中学高等学校図書課／聖学院大学ボランティア活動支援センター

人間の尊厳を重んじる中で隔離された人々を救済した歴史を語り継ぐことは、私たちに課せられた課題です。ハンセン病患者は、かつては「他人ごと」であり、差別の対象となっていました。しかし、近年になって、この隔離状態は解かれ、元患者は社会復帰の道が開かれています。しかし、今も世間の理解や偏見が残っています。

「人に偏見を持ち差別をする」といった過ちを繰り返さないために、この歴史を「他人ごと」ではなく、自分たちの問題として捉え直し、考える時間を皆さんと一緒に持ちたいと思います。

■日時 串どちから片方の参加も可能です

1日目(勉強会)：7月16日(月)18:00～20:30
場所：大学1号館地下1階 1c1cafe
「ミニ講座と関連映画の上映をします」
講師：聖学院中学高等学校 西浦 昭英先生

2日目(見学会)：8月28日(火)12:50～17:00
場所：多磨全生園・国立ハンセン病資料館(東京都東村山市)
ハンセン病資料館の見学と多磨全生園の散策をします

■参加費 見学会参加の方は500円(資料館内への入場料は別途必要です)

■問合せ・申込み 主催は 聖学院大学 ボランティア活動支援センター
(1号館地下1階 1c1cafe、もしくは1103 教養まで)
TEL:048-780-1705 E-mail: vol-sap@seigakuin-univ.ac.jp

ハンセン病勉強会と資料館見学会参加申込

7月16日・8月28日に参加します。(お申し込みは必ずこの用紙に記入してください)

名前： _____ 学籍番号： _____

携帯電話番号： _____

E-Mail アドレス： _____

■新歓ボラ Tea

新入生のみならず、ご入学おめでとうございます！

ボラ Tea ☕

ボラ Tea では、聖学院生が取り組んでいるボランティア活動や、オススメのボランティア情報をわかりやすく紹介いたします。

場 所： 聖学院大学1号館1c1cafe

日 付： 2018年4月16日(月)

時 間： 16:00～19:00 (入退場自由)

内 容： 聖学院生が関わっているボランティア団体の紹介
仲良くになれる Tea Time など

学年、学科を越えた
友人ができるよ！

出入り自由！
申込不要！

※参加団体一覧※

- ・ボランティアアソシエーション・プレイス
- ・復興支援ボランティアチーム「SAVE」
- ・VTEP (仙台での復興支援活動)
- ・Habitat for Humanity (こども向けイベント企画)
- ・社会福祉協議会、留学生交流
- ・エーゼンの会 (不登校支援)
- ・ニエス (メンタルヘルスの普及啓発活動)
- ・国際社会科 (こどもキャンプ) 他

お問い合わせ：聖学院大学ボランティア活動支援センター (1103 教養 1c1cafe 窓口) / 学生サポートメンバー (サポメン！)
TEL:048-780-1705 MAIL:vol-sap@seigakuin-univ.ac.jp

■七タボラ Tea

夏休みにボランティアしてみたい人、全員集合！

七タボラ Tea

ボランティア合同説明会

～学内団体編～

通員御礼で大変役だった4月の新歓ボラ Tea の、第2弾です☆

7月の七タボラ Tea では、「夏休み期間にできるボランティア募集」を中心に、「活動にあたっての諸注意」なども説明します。

なび～い 夏休み、「なにがしたいかな～」と思ったら是非、参加してみてくださいね☆

日時：7月11日(水)11:50～13:00

場所：1号館地下1c1cafe

内容： 学内ボランティア団体によるボランティア募集
夏休みにできる！ボランティア紹介
活動にあたっての諸注意説明

対象：聖学院生ならどなたでも OK！

※すでにボランティア団体や部活動・委員会に所属している方ももちろん OK！
夏休みに向けてたくさんの方のボランティア情報が届きますので、ぜひご参加ください。

おひるごはんを食べながら、ボランティア情報を GET しよう！！

主催：聖学院大学ボランティア活動支援センター／学生サポートメンバー (サポメン！)
ボランティア相談窓口：1号館地下1c1cafe

■ボラ年会

本報・聖学院大学ボランティア活動支援センター 協力：聖学院大学ボランティア活動支援センター

ボラ年会 参加者募集！

～ボランティア活動の楽しさを伝える会～

卒・学卒を招いて
楽しもう！

途中参加も
大歓迎☆

日時：2018年12月17日(月)
18:00～20:00

場所：1号館地下1cafe

内容：クイズ大会(景品ありあり)
サホメンによる豪華！？ディナー付き
ホラトーク(色んなテーマ情報交換ありあり)

参加条件：ボランティア経験があれば、どなたでもWelcome♡
参加費：無料

個人で活動している人も、
団体で活動している人も、
楽しく交流して友達増やそうよ！

問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館地下1cafe、1103教室)
TEL: 048-780-1705 Email: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(チラシ表面)

ゼミ 学生クラブ サークル 各種委員会 有志の集まり 問わず！

社会貢献活動で がんばる学生を 応援します！

聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成金

申請期間：5月21日(月)～5月31日(木)
事前説明会および研修会：5月14日(月)15日(火)
※いずれか一日

地域・社会貢献活動に頑張る学生たちに、卒業生たち(聖学院大学同窓会)が応援の手を差し伸べ、助成をさせていただきます。
この機会に自分たちの活動を発表し、資金を得て、より活動を充実させませんか！

【助成額】
1プロジェクト 最高 50,000円
※6月16日(土)の公開審査会でプレゼン後、助成額を決定。
【助成対象者】
地域・社会に貢献する意欲をもった聖学院大学生5名以上のグループであれば、どなたでも(経験不問)

助成を受けた学生たちの声
・大型絵本を買って読み聞かせをし、子どもたちの笑顔が見れた！
・交通費で自転車を回らなくてすみ、活動に参加する人が増えた。
・プレゼンテーションのやり方など、事前研修がわかりやすかった。

詳細は裏面をご覧ください

申込み・問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター
TEL: 048-780-1705 E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(ゼミ向け・チラシ表面)

1プロジェクト 最大5万円+α 総額30万円

ボランティア・まちづくり活動助成

ボランティア活動支援センターでは、2015年度より大学同窓会の協力を得て、ボランティア活動に取り組む学生への助成を行っています。今年からは「地域と移住大学」との連携を受け、ゼミ等の教育活動の一環として、地域貢献に繋がる活動についても応援していきます。学生たちの企画力やプレゼン力等の実践力を身に付ける機会にもなります。ぜひ、地域×教員の活動として、本助成金をご活用ください。

助成対象になるゼミ活動例
・地域の子どもたち対象に遊びのほら読み聞かせのひろばを運営
・伝統文化を伝えるイベントなどを企画
・各学生による知識を基にした文化発信や地域交流
・NPO・企業・行政と連携した社会貢献イベント企画等

これまでに助成金を受けて活動を実施したゼミ

アベニータン(アベニータン)と一緒に行う市内の保育園・幼稚園を回り、園児との交流を通じた文化発信や地域交流プロジェクト。子どもたちとの関わり方、意欲の引き出す機会になっている。子どもたちに大変好評で、継続のサポートを受けている。

ぐさく上野シニア(政治経済学部八木ゼミ)
地域貢献と多文化共生をテーマとしたプロジェクト。留学生と日本人学生が協力して市内西側バスでつくるの道川緑地にある施設を取材し、上野山のおすすすめポイントを紹介する動画を制作した。上野山の上野山山頂の協力により、あげボタTV等を使って発信予定。

※助成金を希望する場合は
1. まずは、ボランティア活動支援センターにお申し込みください。(学生のみでも大丈夫です)
2. 5月14日(月)or 15日(火)の説明会・研修会に参加をお願いします。(申請書もお渡しします)。
3. 6月16日(土)の公開審査会でプレゼン後、助成額を決定します。

問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階1103室)
TEL: 048-780-1705 Email: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

詳細は裏面をお読みください

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(チラシ裏面)

2018年度聖学院大学ボランティア・まちづくり助成金 募集要項

応募資格
地域へ貢献する意欲をもった聖学院大学の学生5名以上の有志のグループ。
以下のみなさんは誰でも応募できます。
① 学内外のボランティア団体
② ゼミ・アベニータングループ
③ 学生会・学生クラブ・同好会
④ 各種委員会
⑤ 有志の集まり

※商店街のシャッター前や絵を描く(美術部のボランティア、障がい者にダンスを教えるダンス部等、新しいアイデアを待っています)。

助成内容
※総額 30万円
① 活動継続助成(運営費補助) 最大 3万円
② 地域貢献活動助成 最大 5万円
③ 被災地応援・復興支援助成 最大 5万円
※ 公開審査会当日、ドネーションバーチャルによる若干の追加助成の可能性あり
活動を行う上で必要な経費全般。ただし、自分たちの飲食代は除く。

助成対象経費
応募期間
助成対象期間
申請書・応募方法

2018年5月21日(月)～5月31日(木)
2018年5月1日～2019年3月末までの活動に対して助成
① 説明会・研修会にご参加ください。
5月14日(月)18:00～20:00 会場:1cafe
5月15日(火)18:00～20:00 会場:1cafe
どちらかにご参加ください。申請書をお渡しし、事業企画書の書き方とプレゼンテーションの研修を行います。
② 必要事項を記入し申請書を5月31日(木)までに、ボランティア活動支援センターにお持ちください。
③ 6月16日(土)13:00からの公開審査会(会場:1号館1cafeを予定)にてプレゼンをお願いします。

選考方法
助成決定
報告書の提出と報告会への参加について
申込み・問合せ先
主催団体

6月16日(土)13:00～の公開審査会で即日決定します。
申込み者は、3分間のプレゼン発表+4分間の質疑応答への対応をお願いします。助成金交付団体は、6月21日(木)の昼休み(会場:1cafe)助成金の交付を行います。
報告書は活動終了後1ヶ月以内の提出になります。(ただし、3月の活動は3月末日)また、2019年1月11日(金)に実施予定の活動報告会にて助成対象事業の報告をしてもらいます。
聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階 1103室)
担当: 数井・川田
TEL: 048-780-1705 FAX: 048-781-0094 Mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp
聖学院大学同窓会・聖学院大学ボランティア活動支援センター
聖学院大学地域連携教育センター

聖学院大学同窓会会長 坂村哲也さん(2001年度政治経済学部卒業)より
私たち同窓生にとって、学生のみなさんはかけがえのない後輩です。
多岐面でご尽力くださっていること、とても誇りに思います。
私たちでもできる限りのお手伝いは致します。
皆様これからの活動が実りあるものになりますよう、心からお祈りします。

■ボランティア活動助成 ドネーションパーティご案内

社会貢献ボランティアで がんばる学生を 応援!

聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成事業
公開審査会
&ドネーション(寄付)パーティー開催
6月16日(土) 13:30~17:30
(13:00 受付開始)

聖学院大学(JR 高崎線・宮原駅から徒歩約5分)

聖学院大学では、学生による東北復興支援活動や、地域でのボランティア活動が盛んに行われています。しかし、経済的負担から活動の継続を得ない学生もいます。そこで学生たちの思いのこもった発表を聞いていただき、小さな支えを育ててお力添えをいただきたく、ドネーション(寄付)パーティーを開催いたします。

【寄付方法】
1口1,000円でチケット購入(物品寄付も歓迎!)

【当日の流れ】
・学生ボランティア団体による活動紹介(1団体3分)
・応援したい団体にチケット投票。即日結果発表
・学生ボランティアと来場者との交流会(参加は任意)

こんな方にお勧めのイベントです
・学生たちがどんな地域活動に取り組んでいるか知りたい
・ボランティアを行う学生と交流したい
・自分たちの活動に学生たちも来てほしい。学生と一緒に何かしたい。

詳細は
募集までご覧ください

主催・問合せ:聖学院大学ボランティア活動支援センター 聖学院大学地域連携・教育センター
TEL:048-780-1705 E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

ドネーションパーティとは?

地域活動(ボランティア)団体を民間の資金で支えるという、アメリカで始まった寄付システムの一つです。ボランティアやNPOが団体の思いや活動を報告し、その報告を聞いた人が、それぞれ共感した団体に寄付する取り組みです。

聖学院大学ボランティア学生応援 ドネーション(寄付)パーティー概要

【日 時】	6月16日(土)13:30~17:30 (13:00 受付開始)
【趣 旨】	聖学院大学では、東日本大震災以降、復興支援活動や地域におけるボランティア活動が大きな人になっていいます。大学として「地域と歩む大学」として、研究・教育・活動を通して、地域との関わりを深めています。学生たちは、地域の皆さまとの関わりを通して、様々なことを学び、成長の機会とさせていただいています。しかし、活動を継続するためにはボランティア費に頼る学生や、経済的負担から活動を諦めるを得ない学生もいます。そこで2015年度から、積極的な学生を応援する「ドネーション(寄付)パーティー」を開催してまいります。ぜひ、学生たちの思いのこもった発表を聞いてください。
【会 場】	聖学院大学 1号館地下1階 1Cafe

大学スクールバス時刻表

■宮原駅西口発	12時 10:30 50
■西大宮北口発	13時 10:30 55
■西大宮北口発	12時 15
■西大宮北口発	13時 15 55

※乗車の際、運転手に「ボランティア活動支援センターのイベントに参加」とおっしゃっていただければ、無料で乗車いただけます。

最寄駅からのアクセス

- ・JR 高崎線宮原駅から.....スクールバス約5分/徒歩15分
- ・JR 埼京線(川越線)西大宮駅から.....スクールバス約10分
- ・JR 埼京線(川越線)日進駅から.....徒歩15分

※当日は公共交通機関をご利用をお願いいたしますよう、お願いいたします。

【申し込み】
メール・お電話にてお受けします。当日飛び込み参加も大歓迎。
主催・問合せ:聖学院大学ボランティア活動支援センター
TEL:048-780-1705 E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

【当日の流れ】
13:00 受付開始。1口1,000円のチケット交換(任意)
13:30 学生ボランティア団体によるプレゼンテーション(1団体3分)
15:00 大学同窓会共催の活動助成事業公開審査、結果発表/ドネーションチケット投票
16:00 交流会(参加は任意ですが、ぜひご参加ください。参加費無料)
17:30 終了
※時間は目安です。発表する団体数によって変動します。

【寄付方法】
1. お金による寄付
受付にて1口1,000円のチケットと交換いただき、学生の発表終了後、応援したい団体にチケットを投票していただけます。
2. 現物による寄付
学生の発表終了後、応援したい団体に物品を直接寄附していただけます。

■復興支援ボランティアスタディツアー 「よいさっ! プロジェクト5」

夏の復興支援 ボランティアスタディツアー よいさっ! プロジェクト5 参加者募集中!!

自分たちができることは何だろう。釜石の地で考えよう。

■日程: 事前学習会 2018年7月21日(土)13:00~17:00
ツアー 8月3日(金)朝~6日(月)夜 4日間

■募集定員:30名 ■申込み受付開始:6月25日(月)

■締切:7月13日(金) ※定員に達した際は、初めての人を優先します。

■活動内容:被災地見学、釜石よいさ(復興祭)への参加、「かまこ★あそびーらんど」にどあそびひろばの運営他(予定)

■参加費:20,000円(内訳:宿泊費(3泊分)、食費(7食分)、プログラム費等 バス代は大学負担)
※ボランティア活動保険に未加入の方は、別途保険料710円が必要です。

■申込方法:所定の参加申込書に必要事項を記入の上、参加費を添えてボランティア活動支援センター(1号館1103教室)にて申し込んでください。※参加申込書は、ボランティア活動支援センターで配付しています。

■その他:この夏のプロジェクトには、他校の高校生も参加します。

★「よいさっ!」プロジェクトについてお知りになりたい方は、気軽にボランティア活動支援センターまでお越しください!★

主催:聖学院大学ボランティア活動支援センター 共催:復興支援ボランティアチーム【S&G】、聖学院大学高等学校、自由の森学園高等学校
協力:一般社団法人三陸ひとづなプロジェクト 後援:釜石市

■復興支援ボランティアスタディツアー 「サンタプロジェクト8」

聖学院大学 復興支援 ボランティアスタディツアー サンタプロジェクト8 参加者募集中!!

自分たちができることは何か。釜石の地で考えよう。

■実施期間: 2018年 11月30日(金)~12月2日(日)
11月30日(金)19:30聖学院大学集合~12月2日(日)12:00高沢大駅乗車予定

■募集定員:30名 ■申込み受付開始:10月29日(月)

■締切:11月16日(金) ※定員に達した際は、初めての人を優先します。

■活動内容:被災地見学、地元のお母さんに教わる郷土料理づくり、現地の方のお話、こどもクリスマス会の運営、原木建築再生プロジェクトのお手伝いなど(予定)

■参加費:9,000円(内訳:宿泊費、交通費、食費(5食分)等)
※ボランティア活動保険に未加入の方は、別途保険料710円が必要です。

■申込方法:所定の参加申込書に必要事項を記入の上、参加費を添えてボランティア活動支援センター(1号館1103教室)にて申し込んでください。※参加申込書は、ボランティア活動支援センターで配付しています。

★サンタプロジェクト8についてお知りになりたい方は、気軽にボランティア活動支援センターまでお越しください!★

主催:聖学院大学ボランティア活動支援センター 共催:復興支援ボランティアチーム【S&G】
協力:一般社団法人三陸ひとづなプロジェクト、被災地生活の復興センター 後援:釜石市

■「夏のボランティアプログラム」
紹介キャンペーン告知

6月18日(月)～夏期間中

新しい自分に、出会う夏。

夏休みにもできる！
ちよとボランティア体験プログラムに関する情報を紹介中！

様々な活動を紹介しています！

- ・高齢者と関わる活動
 - ・一緒に遊ばせよう！
 - ・地域の交流会に参加した時
 - ・サロン活動と共に楽しむ！
- ・障がいのある方と関わる活動
 - ・障がい者スポーツの運営サポート
 - ・作業所で作業づくり
 - ・施設や病院内での交流など！
- ・子どもと関わる活動
 - ・児童館や保育園であそび相手！
 - ・キャンプの引率
 - ・イベントで思いっきり遊ぶ！
- その他、たくさんの情報が載っています！
 - ・国際ボランティア
 - ・環境保全ボランティア
 - ・福祉体験ボランティア
 - ・復興支援ボランティア活動 など
 - ・お気軽にご相談ください！

聖学院大学ボランティア活動支援センター

《相談窓口》
1号館地下 1cafe
12:10～16:30

夏季期間中は1103教室(地域連携・ボランティア支援課)にて相談にのります。
9:00～17:00
いつでもお越しください！

■「ボラフェス2017」開催案内
(イラスト：学生実行委員)

ボラフェス 2018

地域の福祉施設さんにより
オスミ商品の販売とボランティア募集
美味しいお菓子やケーキ、おせんべい
ハンドメイドコーナーなど、魅力的な商品
がいろいろとあります。ご来場ください！

児童虐待防止キャンペーン
～オレンジボン運動～
オレンジボン運動の普及・啓発活動
に合わせ、児童虐待防止について学習する
ことも実施します。

子どもありのコーナー
福祉ボランティアチームの学生リーダー
が、ボランティアで遊び道具を作ります！

主催：ボラフェス2018実行委員会／協力：聖学院大学ボランティア活動支援センター

■「オリンピック・パラリンピックボランティア応募説明会」

TOKYO 2020 Olympic and Paralympic Games

**ボランティアが
世界をつなぐ**

2020 オリンピック・パラリンピックボランティア応募説明会

2020年の夏に開催される「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の
ボランティア募集が、今年の9月にスタートします！

「オリンピック・パラリンピックボランティアって
どんなことやるの？」 「応募するにはどうしたらいいの？」
「活動するにあたっての条件は？」

そこで、応募にあたって必要な情報をお知らせする説明会を開催します。
応募を検討している方、活動に興味のある方の参加をお待ちしています。

日時：7/11(水) 10:40～11:40 (アセンブリアール)

場所：7401 教室

内容：さいたま市オリンピック・パラリンピック部による概要説明
ボランティア活動支援センターによる応募方法説明

対象：全学科1・2年生、2020年在学予定の全学生

主催・問合せ：聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)
共催：教養文化学科、児童学科、心理福祉学科、こども心理学科、人間福祉学科
協力：さいたま市